

Georgetown University
Berkley Center
for Religion, Peace & World Affairs

ハワイ先住民と太平洋諸島先住民：制度に組み込まれた人種問題 Native Hawaiians and Pacific Islanders: Systemic Racial Challenges

July 29, 2021

2:00 p.m. - 3:30 p.m. EDT

Location: Online Zoom Webinar

[Native Hawaiians and Pacific Islanders: Systemic Racial Challenges \(georgetown.edu\)
webinar: Native Hawaiians and Pacific Islanders: Systemic Racial Challenges – G20 Interfaith Forum](https://www.georgetown.edu/webinar/native-hawaiians-and-pacific-islanders-systemic-racial-challenges-g20-interfaith-forum)

The G20 Interfaith Forum Anti-Racism Initiative, Fondazione per le scienze religiose(FSCIRE), the Berkley Center for Religion, Peace, and World Affairs at Georgetown University, World Faiths Development Dialogue, and the International Academy for Multicultural Cooperation (IAMC) have hosted, issued, or sponsored the original content in English but have not reviewed or approved this documentation, interpretation, or translation.

G20 宗教間フォーラム人種差別撤廃活動、宗教科学財団(FSCIRE)、ジョージタウン大学バークレー宗教・平和・世界情勢センター、世界宗教開発対話、多文化協力国際アカデミー(IAMC)は、原典を英語で主催、発行、後援しましたが、この書類、解釈、翻訳の確認、承認はしていません。

目次

概要	4
パネル.....	4
ウェビナー要約 – G20 宗教間フォーラム広報コンサルタント・ジョアンヌ・ワズワース (JoAnne Wadsworth)	6
注目のメッセージ.....	9
はじめに.....	12
アジア系米国民、ハワイ先住民、太平洋諸島先住民に関するホワイトハウス活動(AANHPI) - クリスタル・カアイ.....	13

長期に渡り、機会均等を阻んできた連邦法、政策、制度における格差を認めた.....	13
米国におけるアジア系米国民および太平洋諸島出身者に対する人種差別、排外主義、不寛容を非難し、闘うための大統領メモを発行.....	13
NHPI の多様性は長い間隠蔽され、アジア系米国民として集計されてきた.....	14
ハワイ以外の自由協力社会協カコミュニティには、まだ言語面での障壁あり.....	15
人種差別と植民地的な考え方が、今日の NHPI の人々にどのような影響を与えているか、特に気候変動に関してーウポル・ルマ・ヴァアイ.....	16
伝統的な奴隷制度の原則は、気候戦略を含め、生活に今でも組み込まれている.....	16
土地や海の精神性によって生きる人やコミュニティを排除する人種戦略.....	17
何世紀もかけて進化・検証され、現在も機能する先住民のモデルや気候適応策.....	17
生態系への罪、気候への罪、気候難民や無国籍化を引き起こす採取経済の罪.....	18
そして、核実験の罪.....	18
ハワイ市民事務所(OHA)ワシントン DC 支局ーキオネ・ナコア.....	19
ハワイ先住民とは、西暦 300 年頃にハワイに入植して建国した先住民族であり、高度に組織化された社会システムと洗練された言語と文化を持つ.....	19
王国は 19 世紀に欧米の砂糖キビ栽培者と宣教師の子孫と米国軍により崩壊.....	20
米国の同化政策により、学校や議会でハワイ語の使用が禁止.....	20
1970 年代、音楽家、芸術家、歴史家、政治家志望者が中心となり、ハワイ事務局(OHA)を設立.....	21
米領サモア・コミュニティ・カレッジ(ASCC)におけるサモア研究ーオケネイサ・ファウロ・マニラ.....	22
米国領サモアでは人種差別が制度化され、生活に根付いている.....	22
自分の歴史がないと、どこから来たのかわからない.....	23
米国との提携により、我々は米国民であり、サモア人でもある.....	24
サモア人は環境の一部であり、その上にいるわけではない.....	24
ハワイ先住民教育と世界の覚醒のための認識論からの視点ーマニユラニ・マイヤー.....	25
権力者の無知と人種差別による既存知識体系の抹殺は世界的に発生しているが、我々先住民の知識体系は回復しつつある.....	25
土地に尽くし、人を愛す.....	26
難問こそが人生を価値あるものにし、古代の生活様式に精通し、気候変動を知っている人々を呼び集める.....	27
公平、互惠、透明性が、より高い周波数の平等、同時性、真実をもたらす.....	27
質問と回答.....	28

なぜ政府に NHPI の代表者を置くことが重要なのか？ --- そうしないと、NHPI が政策に反映されないから。人事は政策なり。	28
米国とハワイ先住民の歴史的関係は？ --- 米国とハワイ先住民の間の連邦信託責任が大幅に改善され、例えば 70 年代からネイティブ言語での博士号取得可能に	29
気候変動と人種差別がフィジーの生活に与える影響？ --- 物事を分類する成長中心の経済モデルから、「すべてはつながっている」という認識への転換が必要	30
暴力に対処するためのサモアの言語と文化の役割？ --- 例えば、施設の少年たちに、自らが何者であるかを思い出させ、報復を踏みとどまらせる。	31
対立に対処する方法？ --- 対立は、許す機会、自分の長所を出す機会、人と合わせる機会と考える	31
ハワイ先住民族コースに参加するには？ --- 家族、母、兄弟、コミュニティを大切にすることで、外への広がりが生まれる。	33
NHPI コミュニティに影響を与える不公平さへのバイデン政権の取り組み？ --- 連邦政府全体の公平性を確保するための大統領令の発令；ハワイ先住民が気候変動に対処するための国際的な伝統的知識の共有を可能とする内務省通知など	33
結論	35
歴史を振り返ってみると、私たちのコミュニティは回復力と強さに満ちている --- クリスタル・カアイ	35
共生関係なくして真の人間性はなく、永続的な善の源はアロマ(すべての価値の紛れもない源)である --- ウポル・ルマ・ヴァアイ	35
第一に、NHPI に限らず欧米も含めてその複雑な歴史を学び、それぞれが人であると知ること --- キオネ・ナコア	36
過去は、今日と明日の方向性を示してくれる --- オケネイサ・ファウオロ・マニラ	36
私たちの生命全体は法則 --- マニユラニ・マイヤー	37
自らの行動だけでなく、他の皆の行動にも 100% 責任を持たなければならない --- オードリー・キタガワ	38
訳注	39

概要

先住民族であるハワイ先住民と太平洋諸島先住民 (NHPI: Native Hawaiian and Pacific Island) のコミュニティは、土地ならではの課題に直面しています。太平洋諸島やその他の沿岸地域では、気候変動が土地や食料安全保障、そして繊細な生態系を脅かしています。NHPI の家族やコミュニティは、公平性、司法、機会に対する体系的な障壁により、機会が制限され、安全が脅かされています。

学者、コミュニティ・リーダー、活動家らによるパネルディスカッションでは、NHPI コミュニティが直面している課題や、制度に組み込まれた障壁 (systemic barriers) を克服するためにどのような手段を講じるべきかが議論されました。モデレーターは、G20 宗教間フォーラム人種差別撤廃活動 (the G20 Interfaith Forum Anti-Racism Initiative) の議長であるオードリー・キタガワ氏が務めました。(訳注 1)

このイベントは、G20 宗教間フォーラム人種差別撤廃活動と FSCIRE (the Fondazione per le scienze religiose) が主催しました。また、ジョージタウン大学バークレー宗教・平和・世界情勢センター (the Berkley Center for Religion, Peace, and World Affairs at Georgetown University)、世界宗教開発対話 (World Faiths Development Dialogue)、多文化協力国際アカデミー (IAMC) が共催しました。

パネル

オケネイサ・ファウオロ・マニラ [Okenaisa Fauolo-Manila](#)

ケセタ・オケネイサ・ファウオロ・マニラは、アメリカン・サモア・コミュニティ・カレッジ (ASCC) のサモア研究所のディレクターを務めています。

クリスタル・カアイ [Krystal Ka'ai](#)

クリスタル・カアイは、ホワイトハウスのアジア系米国民・ハワイ先住民・太平洋諸島先住民に関する活動 (AANHPI: the White House Initiative on Asian Americans, Native Hawaiians, and Pacific Islanders) のエグゼクティブ・ディレクターを務めています。以前は、ハワイ先住民・太平洋諸島先住民 (NHPI) としては初めて、米国議会アジア太平洋米国民幹部会議 (CAPAC: the Congressional Asian Pacific American Caucus) のエグゼクティブ・ディレクターを務めました。

オードリー・キタガワ [Audrey Kitagawa](#)

オードリー・E・キタガワ (J.D.) は、多文化協力国際アカデミー (International Academy for Multicultural Cooperation) の創設者であり、意識の光国際スピリチュアル・ファミリー (Light of Awareness International Spiritual Family) の会長、宗教連合活動 (URI: the United Religions Initiative) への国連代表、URI UN 共同サークル (URI UN Cooperation Circle) の共同ファシリ

テーターを務めています。また、G20 宗教間フォーラムの人種差別撤廃活動(the G20 Interfaith Forum Anti-Racism Initiative)の議長も務めています。

マヌラニ・マイヤー [Manulani Meyer](#)

マヌラニ・マイヤー博士は、ハワイ大学西オアフ校の学生部准専門官です。ハワイ大学西オアフ校の先住民教育ディレクターを務めた経験を持ち、先住民の認識論の分野で活躍し、世界の注目を集めています。

キオネ・ナコア [Keone Nakoa](#)

キオネ・ナコアは、ハワイ市民事務所(OHA: Office of Hawaiian Affairs)のワシントン DC 支局長です。OHA と連邦政府の橋渡し役として、ハワイアンコミュニティの発展に貢献しています。ワシントン DC に戻る前は、ホノルルで弁護士として活躍し、複雑な商業訴訟や一般的なコーポレートガバナンスを専門としていました。

ウポル・ルマ・ヴァアイ [Upolu Luma Vaai](#)

ウポル・ルマ・ヴァアイ博士は、フィジーのスバにある太平洋神学カレッジ(PTC: Pacific Theological College)の校長であり、PTC の神学・倫理学の責任者です。ヴァアイ氏はフィジーの神学者、太平洋の先住民族の哲学者であり、専門は太平洋の共生関係(Pacific relationality)、環境関係神学(eco-relational theology)、脱植民地化教育(decolonizing education)、共生関係解釈学(relational hermeneutics)です。(訳注 17)

ウェビナー要約 – G20 宗教間フォーラム広報コンサルタント・ジョアンヌ・ワズワース (JoAnne Wadsworth)

7月29日(木)、G20 宗教間フォーラムは第3回ウェビナーを開催し、主催は人種差別撤廃活動、共催はジョージタウン大学バークレー宗教・平和・世界情勢センター、世界宗教開発対話、国際多元的協力アカデミー、財団法人 宗教科学振興財団 (FSCIRE : Fondazione per le scienze religiose) が担当しました。

パネリストには、ホワイトハウスのアジア系米国民・ハワイ先住民・太平洋諸島先住民に関する活動のエグゼクティブ・ディレクターであるクリスタル・カアイ氏、アメリカン・サモア・コミュニティ・カレッジのサモア研究所のディレクターであるオケネイサ・ファウオロ・マニラ氏、ハワイ大学ウエスト・オアフ校の学生部准専門官マニユラニ・アルリ・マイヤー博士、ハワイ市民事務所(OHA)のワシントン DC 支局長キオネ・ナコア氏、そして牧師で博士の太平洋神学大学(フィジー)校長ウポル・ルマ・ヴァイ氏が参加しました。また、G20 宗教間人種差別撤廃活動の議長であるオードリー・E・キタガワ氏がモデレーターを務めました。

キタガワ氏はまず、登壇者と聴衆を歓迎し、G20 宗教間フォーラム(IF20)人種差別撤廃活動目的を概説し、今回の議論の必要性を説明しました。そして、気候変動との関連性を含め、人種問題がハワイ先住民・太平洋諸島先住民(NHPI)コミュニティにどのような影響を与えているのか、各パネリストに語っていただきました。

クリスタル・カアイ

カアイ氏は、G20 宗教間フォーラムが、社会における体系的な人種差別と障壁を検証する素晴らしい取り組みを行っていることに感謝し、人種差別を非難し、NHPIの人々の公平性と機会を促進するための大統領令 14031(Executive Order 14031)への署名、アジア系米国民・ハワイ先住民・太平洋諸島先住民に関する活動の復活など、NHPIコミュニティに対する人種差別に対処し、公平性を高めるためにホワイトハウスが最近行った行動について、以下のように説明しました。

この1年半は例年になく、NHPIコミュニティは今回の危機に打ちのめされています。その多様性は長い間、表に出ることなく、アジア系米国民のデータと一緒に集計されてきたため、本来必要な注目を集めることができませんでした。この活動の任務の一つは、このデータ集約の問題に取り組むことです。

ウポル・ルマ・ヴァイ

ヴァイ氏は、人種差別や植民地主義的な考え方が今日の NHPIの人々にどのような影響を与え続けているのか、特に気候変動に関してコメントしました。また、太平洋の奴隷制度「ブラックバード」(blackbirding)にも言及し、深海採掘や採取経済、核実験による損失や被害などの「生態系の罪」にも注意を促し、これらはすべて人種差別の原理と密接に関係していると主張しました。そして、科学、特に気候科学を無味乾燥なデータから思慮あるもの(something with heart)にするために、精神性の重視が不可欠であることを強調しました。

植民地主義が機能するためには、黒や茶色の「未開」の人々を救うべしという物語を作らなければなりません。その物語は、気候変動と太平洋諸島をめぐることから今も

続いています。私たちは、これらの島の人々が持続可能な文化を持っているという気候変動に関する物語を推進し、先住民の戦略を活用した計画を立てる必要があります。これら戦略が西洋で試されていないことが、機能しないというにはなりません。

キオネ・ナコア

ナコア氏は、ハワイの概要と、植民地化と同化の複雑な歴史を説明しました。ハワイ王国は、外国人がやってくる前は、完全に自立した社会であり、洗練された言語、文化、宗教を持ち、当時のどの社会よりも高度な教育を受けた人々が暮らしていたといえます。しかし、米国とアジアの間に位置する戦略的な場所であったため、西洋の同化は早かったとも。ハワイ共和国(The Republic of Hawai'i)が成立し、最終的には先住民の同意も補償もなく、すべての土地を米国に割譲して併合したことが説明されました。ハワイ語の使用は禁止され、米国社会に同化するための政策がとられた、とも説明しました。

100万人近い人口が、最も少ない時で2万人になったハワイ先住民は、1970年代に文化と価値観のルネッサンスを経験し、ハワイ先住民の権利を守り、格差に対処するためにハワイ市民事務所(the Office of Hawaiian Affairs)の設立に至りました。

オケネイサ・ファウロ・マニラ

ファウオロ・マニラ氏は、米国領サモアでサモア文化を教え、擁護してきた経験に触れ、生徒やコミュニティに自分たちの歴史を知ってほしいと訴えました。島の文化や言語を守るためのリップサービス(lip service)は十分に行われていますが、実際に行動や政策を実行しようとすると、サポートは極めて頼りない(slippery)ものになると言います。

サモアの物語を知ることは、自らが生存者(a survivor)であることを理解することです。私たちの文化は3,000年前から存在していますが、私はそれをさらに3,000年先まで存続させるつもりです。国連によれば、私たちは植民地ですが、私たちはそのようには考えていません。私たちは自由です。米国とはパートナーシップを結んでいますし、これからもそうありたいと思っています。私たちは米国人ですが、同時にサモア人でもあります。そのバランスを保つためには、自らの物語を知らなければなりません。

マニラニ・アルリ・マイヤー博士

マイヤー氏は、先住民の認識論と精神性の重視(spirituality)によって、NHPI社会が「より高い周波数」(“higher frequency”)へと昇華し、過去と現在のダメージを癒すことができるのではないかと、という点に注目しました。

先住民の認識論を一言で表すと、「土地を愛し、人々に奉仕し、土地を愛し、人々に奉仕する」ということです。公平性(Equity)、互惠性(reciprocity)、透明性(transparency)は、素晴らしい土台です。真実を語り始めれば、真実が癒してくれます。現状私たちを取り巻いている制度体系(these systems)はすべて解体され、再構築され始めます。最終的にこれらは、平静さ(equanimity)、同時性(simultaneity)、真実(truth)の「高い周波数」になります。問題を解決する意識は、その問題を発展させてきた意識ではありませんので、この「高い周波数」を身につけなければならないのです。

質疑応答

質疑応答では、キタガワ氏と参加者の双方から質問が寄せられ、以下のようなトピックが取り上げられました。

- なぜ政府に NHPI の代表を置くことが重要なのか。「人事は政策なり」
- 発展のために物事を分類する成長中心の経済モデルから、すべてがつながっているという認識に変わる
- 紛争や人種差別に対処し、それを乗り越えて成長していく方法
- NHPI コミュニティを外から支えるには
- 現在の米国とハワイの関係についての分析

おわりに

最後に、各講演者から会場に向けて一言ずつ挨拶がありました。

- クリスタル・カアイ

「今日行われた議論にとっても刺激を受け、将来への希望が持てました。克服しなければならない壁はたくさんありますが、私たちのコミュニティは団結力があり、克服して抵抗する能力があることを証明しています」と述べました。

- ウポル・ルマ・ヴァアイ博士

「希望とは未来のメロディーを聞くことであり、共生関係 (relationality) とはそのメロディーに合わせて踊ることです。私たちの歴史や文明は、西洋の探検家や宣教師との最初の接触から始まったわけではありません。私たちは、自分が誰であるかを受け入れてこそ、本当の自分になれるのです。」

- キオネ・ナコア

ナコア氏は、人種差別はほとんどの場合、無知に過ぎないと再度述べ、ものごとを前進させるためにできる 2 つのことを提案しました。

- すべての人々の複雑な歴史を知るために、時間をかけること。人は人であり、その理解が得られれば、多くの対立 (conflict) が解決される。
- その理解 (knowledge) をもとに、個人的にも集団的にも、愛をもってお互いをサポートし、ものごとを可能にする。

- マニラニ・アルリ・マイヤー博士

「共生関係は、人種差別の対極にあるものではありません。それは、すべてのものが癒される仕組みを発露させるものです。そして今日、私たちはその多くを目の当たりにしました」。

- オードリー・キタガワ

「皆さんの言葉、情熱、ビジョン、インスピレーションは、私たちの心の奥深くに響きました。このようなコミュニティには、皆さんのような提唱者やリーダーがいることを知り、高揚感と希望を感じています。」

注目のメッセージ

ダイアログ全体を聞いたり読んだりすることを強くお勧めしますが、以下のような注目すべきメッセージがあり、レポートではそれらがグレーで強調されています。

ハワイ先住民は、他の太平洋諸島先住民とりわけ米国内の自由協力コミュニティの社会契約 (Compacts of Free Association communities in the United States) が直面しているような言語アクセスの障壁には直面していません。米国の連邦政府や州政府が提供するリソースを他の言語に翻訳したり、文化的に適合した支援活動を行ったりして、COVID パンデミックの期間中、健康格差への対応や深刻な失業問題への対応など、必要なケアを受けられるように努力しています。 -- [#Krystal010](#)

科学と精神性、個人と公共、男性と女性、非宗教なものや聖なるもの、まだまだありますが、そういったカテゴリーに人の生き様 (life) を区分けすることは、植民地支配者による地位や権力の階層に基づいた人種的な階層化 (racial stratification) であり、その階層化の中で、自分たち支配者以外の民族を最も弱くて未開なカテゴリーとして区分けする (to classify what they see as the weakest and uncivilised category) ことにほかなりません。 -- [#Vaai010](#)

私たちは海洋に住んでいる (We are moana people) のです。私たちは大きな海洋国であり、小さな島国ではありません。この物語 (this narrative) を変えるためには、精神性 (spirituality) が必要であり、気候変動の問題に精神性を持ち込む必要があります。 -- [#Vaai020](#)

第二に、国際的な気候変動協定は、しばしば大国や豊かな富裕国の物語やイデオロギーに左右されてきました。例えば、西洋の富裕国が太平洋地域を「小さな島国」「沈みゆく島」「溺れる人々」「脆弱な太平洋」などと表現した場合、これらの島民や国は救わなければならない未開の民族であるという前提があります。つまり、西洋の救世主という概念が続いているのです。植民地計画を成功させるためには、黒色・褐色の未開の民族を救うこと、あらゆる文化が未開で西洋の基準に達していないので救済の対象であること、というイデオロギーを作り出す必要があります。この物語は、植民地時代の宣教師の使命にさかのぼります。黒色・褐色の田舎者 (bacon) や野蛮人 (savage) は、その文化の貧困さが故に、優れた人種によって救われる必要がある、というのは、西洋文化の呪いです。 -- [#Vaai025](#)

キリスト教が説く私的な罪の深さには関係ない (is not touched) のです。開発前提の経済システム (our development economic systems) が引き起こした社会的・生態的破壊を認めなければ、生命を破壊し、人々や地球の幸福を歪めるものはすべて罪なのです。 -- [#Vaai030](#)

西パプア、カナック・ニューカレドニア (Kanak New Caledonia)、グアム、ハワイ、その他の太平洋地域において、米国、フランス、インドネシアなどの軍備をもつ強国

(militarised powerful nations)による人権と地権の侵害の罪を明らかにする必要があります。 -- [#Vaai040](#)

1890年から1893年にかけて、米国やヨーロッパのサトウキビ農園主や宣教師の子孫たちが、米国軍の支援を受けてハワイ王国を倒し、ハワイ共和国を成立させました。 -- [#Keone010](#)

現在進行中のパートナーシップの対話プロセスでは、私たちは自らを植民地だとは思っておらず、自由なのです。米国とのパートナーシップがあります。それによって、私たちは米国民であり、同時にサモア人でもあるのです。 -- [#Okenaisa010](#)

米国の歴史(American history)を知る必要があるでしょうか？ええ、米国の物語(the American story)を知らなければなりません。しかし、私たちはサモアの物語も知らなければなりません。このようにして、私は環境の変化に対応してサモア人として生存(we still survive)できるようにするための刺激を与えているのです。 -- [#Okenaisa020](#)

私たちは環境の一部(a part of the environment)であり、環境に組み込まれた存在(an integral part of the environment)であり、環境の上にいるのではないということです。 -- [#Okenaisa030](#)

皆さんもご存知だと思いますが、私たちがこの混乱から抜け出すためのエネルギーの場を呼び出すためには、具体的なもの(something tangible)が必要ですが、その具体的なもの(tangibility)とは、もちろん無形のもの(the intangible)なのです。 -- [#Manulani010](#)

現在、ハワイ先住民を含めて、アメリカインディアン、アラスカ先住民の3つのネイティブアメリカングループについては連邦信託責任(Federal Trust Responsibility)があります。この義務を果たすために、議会は教育、健康、住宅などを促進するための多くのプログラムや政策をはじめ、自己決定を可能にする(to enable self determination)ためのさまざまな連邦プログラムを制定、実施してきました。 -- [#Keone020](#)

多くの場合、大きなプログラムでは何かを言っているにもかかわらず、実際に実行するとすると、ハワイ先住民は何かと混乱してしまうのです。このようにして、制度的な人種差別が起きてしまう(the systemic racism can play out)のだと思います。そして、そこから精神的な影響が拡大していくのです。 -- [#Keone025](#)

私たちは密接につながっているので、一方が影響を受けたり、他方が影響を受けたりした場合、物事を単一のものとして、あるいは二項対立(binary compartments)やカテゴリで扱ってはならないのです。 -- [#Vaai050](#)

私たちは誰をも愛しており、少年たちと接していると、心がとても痛みます。だからこそ今、歴史や文化を利用して、かつての自分を思い出してもらえるようにしています。 -- [#Okenaisa040](#)

いつの日か、生徒の心に接すれば、その生徒は人として生き残れるという事実を知ることになるでしょう。そうすれば、自分の思い通りにならないことに報復するのではなく、平和な気持ちで問題に取り組むことができるでしょう。私たちの文化と言語を、そのように利用しています。 -- [#Okenaisa050](#)

対立は、私たちが成熟するために、お互いに結合するために、(判読不能)、私たちがどのように振る舞うべきかを教えるために必要な要素なのですね。(判読不能)最初の葉は赦し(forgiveness)です。 -- [#Manulani015](#)

意識的に自分の優れた点を発揮することができるようになり、他の人と結合するアウォモ(awomo)と呼ばれる神秘的なプロセスを経験することになります。アウォモのチャンネルは常に、創造の可能性を秘めています。それがアウォモ・クーリアナ(awomo cooliana: unidentifiable)です。クーリアナ(Cooliana)とは、個々人の優れた点に対する集団的な変化(collective transformation to individual excellence)のことです。 -- [#Manulani020](#)

私たちは世界という鏡を通して自分自身を見ることになりますが、そのときに自らの等身大の姿を見るのか、それとも他人の影の中の姿を見るのか、消えゆく光による長い影に自らを見るのか、年老いた夕暮れの闇(the advanced darkness of evening dusk)のなかに見るのか？それとも、長く輝く一条の光や朝日の中に自らを見るのだろうか？ -- [#Vaai060](#)

異なる人々を同じグループとしてひとまとめにしないことがとても重要です。ハワイ先住民や太平洋諸島先住民の問題が一緒にされてしまうことがよくあります。 -- [#Keone030](#)

人種差別は多くの場合、単なる無知だと思います。 -- [#Keone040](#)

1つ目は、ハワイ先住民だけでなく、すべての太平洋諸島先住民、そして西洋諸国の人々の複雑な歴史について、時間をかけて学ぶことです。 -- [#Keone050](#)

人には、自らのみにでなく他者を含む全ての人の行動に100%の責任がある。外界のすべては人間の内面から外に向かって投影されたものだから。 -- [#Audrey010](#)

はじめに

オードリー・キタガワ 0:05

こんにちは、ご招待に応じただきありがとうございます。G20 宗教間フォーラム人種差別撤廃活動 (the G 20 Interfaith Forums Anti-Racism Initiative) を代表してニューヨークよりこのウェビナーの司会を務めさせていただきます。私はオードリー・キタガワと申します。私はハワイで生まれ育ち、現在もハワイに居住しています。私たちの人種差別撤廃活動 (The Anti-Racism Initiative) では、歴史的、現代的な文脈における人種差別の影響や、人種差別が永続する制度的、システムの、構造的なことがらを対象としています。

本日は、ハワイ先住民と太平洋諸島のコミュニティが、人種差別や、気候変動、海面上昇などの問題にどのように対処しているかについてお話を伺います。人種差別撤廃の取り組みにご支援いただき G20 諸宗教フォーラムの会長コール・ダーラム (Cole Durham) 氏と副会長キャサリン・マーシャル (Katherine Marshal) 氏に心より感謝いたします。また、人種差別とその根本的な原因、解決策を検討し、G20 のリーダーが検討するための洞察力や提言を提供する人種差別撤廃作業部会の献身的なメンバーの皆様にも感謝申し上げます。

ジョセフ・バイデン大統領は、就任初日に連邦政府における人種平等を推進する大統領令に署名し、就任後 1 週間でアジア系米国民、ハワイ先住民、太平洋諸島先住民に対する人種差別、外国人排斥、不寛容を非難する大統領覚書を発表しました。本日のパネリストの一人であるクリスタル・カアイ氏は、バイデン大統領から、アジア系米国民、ハワイ先住民、太平洋諸島先住民に関するホワイトハウス活動 (the White House Initiative on Asian Americans, Native Hawaiians and Pacific Islanders) のエグゼクティブ・ディレクターに任命されたばかりです。米国の連邦レベルでハワイ先住民や太平洋諸島のコミュニティの問題が提起されることは、これらの問題を国内および国際的な認識へと導く重要なステップとなります。今回の講演者の方々は、社会的・人種的司法の問題や、ハワイ先住民・太平洋諸島コミュニティのエンパワメントや教育に、ライフワークとして取り組んでおられ、順番にご紹介します。

本日は、改めて、アジア系米国民、ハワイ先住民、太平洋諸島先住民に関するホワイトハウス活動 (the White House Initiative on Asian Americans, Native Hawaiians and Pacific Islanders: AANHPI) のエグゼクティブ・ディレクターを務めるクリスタル・カアイさんからお話を伺います。AANHPI に関するホワイトハウス活動と大統領諮問委員会 (Presidential Advisory Commission on AANHPI) の活動を指揮し、バイデン政権に対し、各省庁の AANHPI に関連する連邦プログラムの実施と調整について助言する役割を担っています。

クリスタルさん、今日はありがとうございます。COVID-19 は、ハワイ先住民と太平洋諸島先住民があまりにも長い間直面してきた、公平性、司法、機会に対する制度的な障壁 (the systemic barriers to equity, justice and opportunity) を浮き彫りにした、とあなたはおっしゃっていますね。また、バイデン大統領は、アジア系米国民、ハワイ先住民、太平洋諸島先住民に関する歴史的なホワイトハウス活動を復活させ、再活性化させたとのことですが、その理由を教えてください。このホワイトハウス活動のエグゼクティブ・ディレクターとしてのあなたの役割は、この問題にどのように取り組むのでしょうか？ お願いします。

アジア系米国民、ハワイ先住民、太平洋諸島先住民に関するホワイトハウス活動(AANHPI) — クリスタル・カアイ

クリスタル・カアイ 4:16

キタガワさん、(判読不能)ありがとうございます。本日、ハワイ先住民や太平洋諸島先住民が直面している制度的な人種的課題(the systemic racial challenges)について議論する機会を与えてくださった、G20の宗教間フォーラム人種差別撤廃活動に感謝します。G20の宗教間フォーラムの活動と、私たちの社会における人種的な課題や障壁を検証するために行っている活動に深く敬意を表します。私は、このパネルで、多くの著名なリーダーやハワイ先住民・太平洋諸島先住民と一緒に、バイデン政権の見解やビジョンを共有できることを大変光栄に思っており、米国内そして国際的に制度に組み込まれた人種差別や不平等(systemic racism and inequality)に対処するために、社会として取り組まなければならないことをお伝えしたいと思います。

ご存じのように、COVID-19の大流行は、経済的にも健康的にも、そして精神的にも、すべてのコミュニティに深刻な影響を与えています。この影響は、ハワイ先住民や太平洋諸島のコミュニティにも及んでいます。

長期に渡り、機会均等を阻んできた連邦法、政策、制度における格差を認めた

そこで、パンデミックによって悪化した長年の不公平に対処するための政府全体の対応の一環として、バイデン大統領は就任初日に、連邦政府における人種的公平性を推進するための大統領令(an executive order to advance racial equity through the federal government)に署名し、わが国の法律、政策、制度には、長年にわたって多くの人々に平等な機会を与えることを拒んできた根本的な不公平があることを認めました。

米国におけるアジア系米国民および太平洋諸島出身者に対する人種差別、排外主義、不寛容を非難し、闘うための大統領メモを発行

大統領は就任後1週間で、米国内のアジア系米国民および太平洋諸島先住民に対する人種差別、外国人排斥、不寛容を非難し、闘うための大統領覚書を発表しました。さらに3月には、憎しみ(hate)と闘うために政権がとっているさらなる行動を説明したファクトシートを発表しました。

5月は「アジア系米国民、太平洋米国民の伝統月間」(Asian Pacific American Heritage Month)とされていますが、大統領は5月を「アジア系米国民・ハワイ先住民・太平洋諸島先住民の伝統月間」(the Native Hawaiian community in that proclamation, defining the month as Asian American, Native Hawaiian and Pacific Islander Heritage Month)と定義し、その中で初めてハワイ先住民のコミュニティの名前を明確にしました。そして同月末、アジア系米国民、ハワイ先住民、太平洋諸島のコミュニティと米国の公平性、司法、機会の向上を目的とし

た大統領令 1403 (Executive Order 1403)に署名し、私の役職が誕生しました。この大統領命令は、この歴史的な取り組みを復活させ、再活性化させるという大統領の長年の公約を実現するためのものであり、また、米国連邦政府全体でアジア系米国民、ハワイ先住民、太平洋諸島出身者のコミュニティのための公平性、司法、機会を促進するという政府の野心的な取り組みを実現するためのものです。私は、このイニシアチブの最初のハワイアンエグゼクティブディレクターを務めるという、大変な名誉と責任を負っています。これは、ハワイ・太平洋諸島出身者のコミュニティが連邦政府の最高レベルで発言権を持つようにするという、米国大統領の意思表示(commitment)であり、私はこの名誉ある任務に感謝しています。

ご存知の通り、この活動は、私たちのコミュニティや世界全体が COVID-19 パンデミックの壊滅的な影響に対処し続けている中で、これまで以上に重要なものとなっています。そして、この1年半がこれまでにないものであったことは周知のとおりです。他の有色人種のコミュニティとは異なり、ハワイ先住民と太平洋諸島のコミュニティは、COVID-19 の危機による健康と経済への不均衡な影響により壊滅的な打撃を受けています。

NHPIの多様性は長い間隠蔽され、アジア系米国民として集計されてきた

しかし、パンデミック以前から、ハワイ先住民や太平洋諸島先住民は、言葉や文化の壁に阻まれ、医療や連邦政府が提供する様々なプログラムにアクセスすることが困難でした。また、このコミュニティは非常に多様性に富んでいるため、ハワイ先住民や太平洋諸島先住民という広い意味での言葉を使っています。しかし、私たちが話しているのは、もっと多くのことからのことなのです。太平洋諸島先住民のことを話しているということは、サモア、フィジー、マーシャル諸島の人々それぞれのことを話しているのです。このように、太平洋諸島出身者の様々な民族離散(the rich diaspora)には、非常に多くの多様性があります。

しかし、米国では、アジア系米国民という一括りのデータの中に集約されその多様性が表に出ることなく、見えないところで深刻化してしまう(masked and aggravated with data for the Asian American population)ことがよくあります。そうすると、残念ながら、存在する多くの格差が見逃されてしまいます。COVID-19 のパンデミックは、その好例です。実際、米国内のアフリカ系米国民やラテン系米国民を含むあらゆる人種グループの中でハワイ先住民と太平洋諸島先住民は、死亡率が最も高いグループなのです。しかし、このような事実はあまり語られていません。なぜなら、私たちのデータはしばしば隠されたり、含まれていなかったりする(is often masked or not included)からです。ハワイ先住民や太平洋諸島先住民は、その他の人々として記載されたり、先ほど述べたように、アジア系米国民や太平洋諸島先住民というカテゴリーにまとめられたりしているため、私たちが現場で見えてきた格差の多くが隠されてしまっているのです。

この活動(the initiative)の使命の一つは、今お話したようなデータの不一致に対処し、体系的な問題を検討し、これらの課題に対処することで、多様なアジア系米国民、ハワイ先住民、太平洋諸島先住民の間に存在する重大な格差をよりよく理解し、対処できるようにすることです。これが、私が現在取り組んでいる課題の大きな柱となっています。

ハワイ以外の自由協力社会協力コミュニティには、まだ言語面での障壁あり

もうひとつの長年の障壁は、言語アクセスと文化的能力です。植民地時代からの先住民であるハワイアンの人々は、文化的にも歴史的にも言葉を奪われ、その言葉を復活させようと努力してきましたが、そこには異なるパターンが見られます。ハワイ先住民は、他の太平洋諸島先住民とりわけ米国内の自由協力コミュニティの社会契約 (Compacts of Free Association communities in the United States) が直面しているような言語アクセスの障壁には直面していません。米国の連邦政府や州政府が提供するリソースを他の言語に翻訳したり、文化的に適合した支援活動を行ったりして、COVID パンデミックの期間中、健康格差への対応や深刻な失業問題への対応など、必要なケアを受けられるように努力しています。(訳注 2)

これらはすべて、この活動が行っている非常に重要なことです。アジア系米国民、ハワイ先住民、太平洋諸島先住民に関するホワイトハウス活動のエグゼクティブ・ディレクターという新しい役割を担うことになりましたが、これからも多くの仕事が待っていますし、私自身も楽しみにしています。オードリーさん、そして G20 サミットの皆さん、今日のディスカッションにお招きいただき、ありがとうございました。マホロ・ヌイ・ロア (mahalo Nui loa: thank you very much)。

人種差別と植民地的な考え方が、今日の NHPI の人々にどのような影響を与えているか、特に気候変動に関して — ウポル・ルマ・ヴァアイ

オードリー・キタガワ 11:18

クリスタルさん、ありがとうございました。ウポル・ルマ・ヴァアイ牧師は、神学・倫理学の教授であり、フィジーのスバにある太平洋神学カレッジ(the Pacific Theological College)の校長です。このカレッジは、太平洋地域の 16 カ国に広がる 20 の太平洋教会が所有しており、彼の研究テーマは、太平洋の先住民族の哲学と精神性、神学の脱植民地化教育、気候変動です。彼は、太平洋地域におけるリレーショナル・ルネッサンス運動(the Relational Renaissance Movement)の先駆者であり、支配的な開発物語(the dominant development narrative)における人種的植民地主義に批判的に取り組んでいます。著書には、「共生関係における自己: 太平洋における人格の脱植民地化」(The Relational Self: Decolonising Personhood in the Pacific)と「共生関係解釈学: 考え方における脱植民地化と太平洋領域」(Relational Humanetics Decolonizing the Mindset of the Pacific Itulagi)があります。

ヴァアイ教授は、COVID-19 とは別に、気候変動が太平洋諸島先住民の生活の安全と幸福に対する唯一最大の脅威であると指摘しました。また、国際社会が気候変動に対処する方法は、人種の分断とその力学を招き、気候変動の影響を受ける草の根コミュニティの人々に影響を与える、といいます。これがフィジーで何を意味するのか、草の根コミュニティにどのような影響を与えているのか、お話ししたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

ウポル・ルマ・ヴァアイ 12:54

ありがとうございます、オードリーさん。太平洋地域では、COVID-19 をはじめとするいくつかの国の気候変動が、人々の生活、安全、幸福に対する唯一最大の脅威であることは言うまでもありません。

伝統的な奴隷制度の原則は、気候戦略を含め、生活に今でも組み込まれている

ウポル・ルマ・ヴァアイ 13:11

伝統的に、人種差別といえば奴隷制度を連想しますよね。太平洋では、ブラックバーディング(Blackbirding)が第一の奴隷制度であり、太平洋諸島の人々は家からさらわれて、オーストラリア、フィジー、サモア、そして離れた太平洋の他の地域に、年季奉公の労働力(indentured labour)として送られました。大西洋横断の奴隷制度(the transatlantic slavery movement)とは比較にならないという意見もありますが、太平洋の奴隷制度の動きはとりわけ表面化してきませんでした。しかし、伝統的な奴隷制度の原則のうちあるものは、気候戦略を含めて、今日の私たちの生活モデルにも組み込まれて(embedded in our development models today)います。その中には、階級や地位、人種や権力、利益などがあります。これらの奴隷制度の原則が、今日の気候変動をどのように形成したかを考えてみたいと思います。(訳注 3)

土地や海の精神性によって生きる人やコミュニティを排除する人種戦略

第一に、地球温暖化に関する重要な情報を伝えるために科学が重要な役割を果たしていることや、パリ協定に基づいて排出量を 1.5°C に引き下げることの重要性には同意します。

しかし、時に科学は人間的な顔を必要とします。精神性 (spirituality) が必要なのです。そうでなければ、事実とデータだけの無味乾燥なシステムになってしまいます。気候変動の議論は、科学のみに焦点を当て、精神性を犠牲にした一方的なものであり、それは時に非常に西洋的でエリート主義的なものです。気候変動の議論は、植民地時代の人種的な物語 (a colonial racial narrative) の影響を受けており、精神性 (spirituality) は、法と非宗教の枠組み (legal secular frameworks) を脅かすものとみなされています。なぜなら、精神性には実体がない (intangible) からです。GDP のように測定することは困難です。太平洋地域では、精神性は、先住民のコミュニティにおける信仰の中心です。科学と精神性、個人と公共、男性と女性、非宗教なものと聖なるもの、まだまだありますが、そういったカテゴリーに人の生き様 (life) を区分けすることは、植民地支配者による地位や権力の階層に基づいた人種的な階層化 (racial stratification) であり、その階層化の中で、自分たち支配者以外の民族を最も弱くして未開なカテゴリーとして区分けする (to classify what they see as the weakest and uncivilised category) ことにほかなりません。

精神性を否定することは、土地や海の精神性に自らの生き様を同化している人々やコミュニティ (peoples and communities whose life depend on spirituality of their lands and oceans) を排除する人種戦略といえます。私たちは海洋に住んでいる (We are moana people) のです。私たちは大きな海洋国であり、小さな島国ではありません。この物語 (this narrative) を変えるためには、精神性 (spirituality) が必要であり、気候変動の問題に精神性を持ち込む必要があります。(訳注 4)

何世紀もかけて進化・検証され、現在も機能する先住民のモデルや気候適応策

第二に、国際的な気候変動協定は、しばしば大国や豊かな富裕国の物語やイデオロギーに左右されてきました。例えば、西洋の富裕国が太平洋地域を「小さな島国」「沈みゆく島」「溺れる人々」「脆弱な太平洋」などと表現した場合、これらの島民や国は救わなければならない未開の民族であるという前提があります。つまり、西洋の救世主という概念が続いているのです。植民地計画を成功させるためには、黒色・褐色の未開の民族を救うこと、あらゆる文化が未開で西洋の基準に達していないので救済の対象であること、というイデオロギーを作り出す必要があります。この物語は、植民地時代の宣教師の使命にさかのぼります。黒色・褐色の田舎者 (bacon) や野蛮人 (savage) は、その文化の貧困さが故に、優れた人種によって救われる必要がある、というのは、西洋文化の呪いです。世界中の人種差別は、植民地時代の枠組みが継続していることを物語っており、ヨーロッパ人以外の人々は、しばしば劣った存在として見られています。

太平洋諸島先住民は、自らの兄弟姉妹にそんなことはしません。太平洋諸島の人々は、この人種差別法 (Racial Discrimination Act) には影響を受けません。私たち先住民がよき生き

様のシステム(a system of well-being)であると同時に地球意識(earth consciousness)によって深く形成された言語としての持続可能な文化を持っているのだ、という気候に関する物語を推進する必要があります。先住民のモデルや、何世紀にもわたって進展してきて検証されてきた気候適応戦略を考慮した上での、今日でも機能するような国の適応計画が必要なのです。これらの戦略は、西洋では科学的に検証されていないからといって、機能しないというわけではありません。これは、西洋以外のコミュニティが如何に進んでいるかを貶める人種差別的な方法です。太平洋諸島先住民は、経験と実績に基づいた生き方をしており、これらの伝統的な気候戦略は、行動と反省を通して日々改善されて(are tested daily)います。

生態系への罪、気候への罪、気候難民や無国籍化を引き起こす採取経済の罪

第三に、教会が毎週日曜日に説いている罪の概念を再考する必要があります。西洋のキリスト教が他の非西洋文化を非難し、悪者にしてきた自らの一連の悪行に焦点を当てた私的な罪の概念から、体系的な罪の概念(a systemic notion of sin)へと移行する必要があります。私たちは、生態系の罪、この場合は気候の罪と呼ばれるものがあることを認識する必要があります。キリスト教が説く私的な罪の深さには関係ない(is not touched)のです。開発前提の経済システム(our development economic systems)が引き起こした社会的・生態的破壊を認めなければ、生命を破壊し、人々や地球の幸福を歪めるものはすべて罪なのです。

例えば、現在、ナウル、トンガ、キリバス、ハワイ南方のクラリオン・クリッパートン地帯で急ピッチで進められている深海採掘の罪を明らかにする必要があります。採掘会社は、将来 10 億台の電気自動車を動かすことができる豊富な多金属の塊(rich polymetallic nodules)が採れる太平洋マヌス(the Pacific Manus)への投資に関心を持っています。カナダの採掘会社が、このベンチャーをリードしています。西パプア、カナック・ニューカレドニア(Kanak New Caledonia)、グアム、ハワイ、その他の太平洋地域において、米国、フランス、インドネシアなどの軍備をもつ強国(militarised powerful nations)による人権と地権の侵害の罪を明らかにする必要があります。(訳注 5)

気候難民の移住や無国籍化(the displacement and statelessness of climate refugees)の原因となっている採取経済の罪(the sin of extractive economies)を明らかにする必要があります。気候変動に関する国際フォーラムや国連で、これらの難民の権利について、もし移転された場合、移転先でも土地や文化の権利があるのかを議論する必要があります。

そして、核実験の罪

私たちは、核実験の罪について議論する必要があります。例えば、フランスは、1966 年から 1996 年にかけて行われた核実験により、多くの人命を失わせ、フランス領ポリネシアの人々の健康に影響を与えたことについて、責任を否定し続けていますが、損失と損害の概念との関係を議論する必要があります。このような気候変動に関連するすべての動きは、先ほど述べた人種の権力、階級、地位、利益といった奴隷制度の原則と表裏一体となっています。ありがとうございました。オードリーさんにお渡しします。

ハワイ市民事務所(OHA)ワシントン DC 支局 – キオネ・ナコア

オードリー・キタガワ 21:39

ヴァアイ教授、ありがとうございました。ここで、キオネ・ナコアさんを紹介しましょう。彼はハワイ州憲法(the Hawaii State Constitution)に基づいて設立された半自治的な州機関であるハワイ市民事務所(the Office of Hawaiian Affairs: OHA)のワシントン DC 支局長で、ハワイ先住民の状況を改善することを使命としています。キオネさんはハワイ市民事務所(OHA)と連邦政府の各部門との連絡役を務め、連邦レベルでの支持活動、リサーチ、コミュニティへの参加を通じてハワイ市民事務所(OHA)の役割を果たしています。ワシントン DC では、故ダニエル・アカカ上院議員(the late US Senator Daniel Akaka)の立法特派員およびスピーチライターを務めた経験があります。ハワイ市民事務所の DC 支局長として、またハワイ出身者として、地域、州、連邦レベルでハワイ先住民が直面している歴史的な格差や不公平感について教えてください。健康、教育、住宅、刑事司法制度、女性に対する暴力などを含めて示していただけませんか？キオネ・ナコアさん、よろしくお願いします。

キオネ・ナコア 22:56

(判読不能)。G20 宗教間フォーラムの皆様、本日はこのような重要なテーマのパネルディスカッションを開催していただき、ハワイ先住民や太平洋諸島のコミュニティが直面している制度に組み込まれた人種差別や課題(the systemic racism and challenges)について話し合うことができることに感謝いたします。本日はこのような機会を与えていただき、本当にありがとうございます。私はキオネ・ナコアです。ハワイ市民事務所のワシントン DC 支局長を務めています。ご質問にお答えするために、まず、ハワイ先住民の歴史的背景を説明し、ワシントン DC で理解されていなかったり、時には誤って理解されている情報を払拭しておきたいと考えました。その意味で、ハワイの歴史やハワイ先住民、米国の一部としてのハワイ州の先住民としての地位(our status as the indigenous once sovereign People of the State of Hawaii)、自己決定権を放棄していないことなどについて認識を高め、ハワイ市民事務所の使命と仕事について話す機会を得たことに感謝しています。

ハワイ先住民とは、西暦300年頃にハワイに入植して建国した先住民族であり、高度に組織化された社会システムと洗練された言語と文化を持つ

ハワイ先住民とは、西暦 300 年頃に現在のハワイ諸島に定住し、最終的にハワイ王国を設立したアボリジニの先住民(the Aboriginal indigenous people)です。ハワイ諸島に及ぶ私たちの主権(sov​er​eignty over our islands)は、高度に組織化された自給自足の社会制度で、共有地所有制度に基づき、洗練された言語、文化、宗教を備え、非先住民がハワイ諸島に到着(to the Hawaiian archipelago)する以前の時点でハワイ先住民として 100 万人おり、陸と海から完全に自立し繁栄している複合的な社会であり、世界で最も遠隔地の 1 つです。

ハワイ先住民の社会は、その政府のリーダーシップのもと、当時世界で最も先進的で教育的な社会でした。例えば、1839 年には、ハワイの教育制度はうまく機能しており、ハワイ先住

民の識字率は、世界で3番目でした。また、1841年には、ハワイ王国は、すべての青少年の教育を義務としている世界で5番目の国でした。

王国は19世紀に欧米の砂糖キビ栽培者と宣教師の子孫と米国軍により崩壊

ハワイ先住民にとって残念なことは、ハワイ全体が米国とアジアの間の太平洋の真ん中という非常に戦略的な場所に位置していることです。そのため、19世紀の間、欧米人がハワイ王国の経済的・政治的な問題にますます関与するようになりました。そして、1890年から1893年にかけて、米国やヨーロッパのサトウキビ農園主や宣教師の子孫たちが、米国軍の支援を受けてハワイ王国を倒し、ハワイ共和国を成立させました。しかし、ハワイ先住民は、当時の自己決定権の主張を放棄することなく、リリウオカラニ女王に対する親米派による違法な転覆 (the illegal overthrow of Queen Lili'uokalani) に抗議し続けました。(訳注6)

しかし、ハワイ先住民は、自己決定権を放棄しなかったにもかかわらず、何世代にもわたって文化的アイデンティティの抹殺に耐えざるを得ませんでした。王国時代でさえも、米国のルートで西洋の同化政策が教育制度に入ってきました。その同化政策は、米国とハワイ先住民の関係において重要な役割を果たしていました。当時は、米国のミッションスクール、寄宿学校、デイ・スクールで行われていましたが、それは領土政府の時代 (the territorial government days)、そして州になるまで続きました。

米国の同化政策により、学校や議会でハワイ語の使用が禁止

1898年、米国のマッキンリー大統領 (President McKinley) は、ハワイを米国に併合することによって、ハワイ先住民に対する同化政策と土地配分 (land allotment) という既存の米国の政策を実行しようとしていました。自治ハワイ共和国 (The self declared republic of Hawaii) は、180万エーカーの王国の土地を、ハワイ先住民や主権政府の同意や補償なしに、米国に譲渡しました。歴史家がやがて明らかにしてくれると思いますが、事実上、米国連邦政府によって決定された領土政府の立法構造と行政が、学校や立法手続きの際にハワイ先住民の言語を話すことを禁止し、ハワイ先住民の言語、文化、伝統的な慣習を犠牲にして、ハワイ先住民を米国社会に同化させる政策を採用したのです。何十年もの間、ハワイ先住民は、自らの文化的アイデンティティを次々と消滅させられ、支配者層による政治的権利の剥奪を受け、怠け者、無知と呼ばれ、人間としての貶めに苦しみ続けています。ハワイ先住民は自らの土地なのに、当時の州知事から、良い政府を脅かす存在であるとみなされていました。

1920年代には、ハワイ先住民の人口はわずか2~4万人にまで減少していました。外部からの接触がなかった時代には、60万人とも100万人とも言われています。もし、1970年代のハワイアン文化ルネッサンスと呼ばれる時代がなければ、ハワイアンの言語、伝統、文化を勝ち取った多くの開拓者や英雄たちは、永遠に失われていたかもしれません。

1970年代、音楽家、芸術家、歴史家、政治家志望者が中心となり、ハワイ事務局(OHA)を設立

繰り返しになりますが、1970年代に、音楽家、芸術家、歴史家、そして当時の政治家志望の人々がハワイで運動を起こし、1978年にハワイ州憲法第12条に基づいてハワイ市民事務所(the Office of Hawaiian Affairs)を設立しました。仰っていただいたとおり、半自治的なハワイ州の事務所としてハワイ先住民の状況改善に努めています。公選された評議員会によって運営されています。ハワイ州法では、ハワイ州事務局をハワイ州の主要な公的機関として認めており、ハワイ州事務局の業務に責任を持たせています。

ワシントンDCの支局長として、私たちの事務所は、今日見られる残念なすべての格差に対処するために、連邦議会議員、連邦政府機関、パートナーと協力する重要な役割を担っています。私たちは主に、ハワイ先住民の状況を改善するための政策プログラムを推進しています。また、アメリカインディアン、アラスカインディアン、ネイティブハワイアンなど、すべてのネイティブアメリカンのコミュニティを対象としています。私たちの目的のひとつは、このような格差を明らかにし、対処することです。残念ながら、時間が足りなくなりました。また戻ってきて、オードリーさんがおっしゃったように、医療、女性に対する暴力、刑事司法制度における格差について、もう少しお話しできればと思います。

米領サモア・コミュニティ・カレッジ(ASCC)におけるサモア研究 — オケネイサ・ファウロ-マニラ

オードリー・キタガワ 30:26

キオネさん、どうもありがとうございました。オケネイサ・ファウロ-マニラさんは、アメリカン・サモア・コミュニティ・カレッジ(ASCC)のサモア研究所のディレクターを務めています。彼女は、ニュージーランドのワイカト大学で社会科学の学士号と修士号、社会科学の教員免許を取得しました。サモア・ロー・カレッジ、セイクリッド・ハート・カレッジ、ASCCで歴史と地理を教えてきました。ASCCの年間優秀教師賞(ASCC Teacher of the Year award)を受賞しています。また、英語とサモア語の2ヶ国語で癌に関する専門用語の手引き(Guide to Understanding cancer related terminologies)を出版しています。オケネイサさんは、米領サモアにおける大きな課題のいくつかは、グローバルに考えると必然的なものであり、つながりを守る必要があると指摘しています。米領サモアの過去には、今日の社会の問題に対処するために利用できる知恵があるとおっしゃいます。オケネイサさん、あなたが見てきた米領サモアの大きな変化と、過去の知恵を使って今日の問題に対処する方法を教えてください。どうぞよろしくお願いいたします。

オケネイサ・ファウロ-マニラ 31:43

ありがとうございます、オードリーさん。(サモア語と思われる表現: unidentifiable)南太平洋で唯一の米領である米領サモアからご挨拶です。そしてもちろん、私たちは夕日を世界の1日の最後に見る島です。そして、7人制ラグビーで金メダルを獲得したフィジーのヴァアイ牧師、おめでとうございます。今朝、私たちの権威あるパネルがこれまでに語ってきたことを聞き、圧倒されています。そして、私は7分間のスピーチの準備をしました。しかし、すべての話を聞いて、私はオードリーさんが私に言った言葉に戻ることはできませんでした。「真実のままであること、最大限の敬意をもつこと、そして人に対峙するよりも国に対峙するようつもりで話すこと。」これは、私にとって、簡単なことではありません。

米領サモアでは人種差別が制度化され、生活に根付いている

人種差別は制度化され(being institutionalised)ており、ここ米領サモアの生活プロセスに深く根付いていますが、その課題を強調したいと思います。私たちの教育言語は英語です。数年前、私は上院で、サモア語を主要な教育言語として使用する法案について証言しました。しかし、その法案は通りませんでした。サモアへの神からの贈り物が言語であるならば、私は皆さんのような国家レベルの仕事をするつもりはなく、自分の知っていること、自分の持っている小さなニッチなものでやっていこうと思いました。そして、高等教育機関でも使用されるように働きかけ、その認定のための質問にも回答しています。私たちは多様性の重要性を説いていますが、私たちの置かれている環境(our policies)では、学生がサモア語を使用するようになるのには、十分な包括性を持たせるために、永遠とも見える時間がかかりそうです。これはまだ承認されていません。そこで、私自身の小さなニッチではありますが、サモア語を履修している学生のためにクラス分けテストを実施することにしました。結果は、全体

的に平均を大きく下回っていました。そこで、ビリー・オーシャン (Billy Ocean) の歌にもあるように、「困難に直面したら、困難に立ち向かう」(when the going gets tough, the tough get going) という姿勢で臨んでいます。私たちはこのレベルで仕事をしたいと思っています。

なぜなら、皮肉なことがたくさんあるからです。米国領サモアは、人口比で言えば増加している地域のはずです。しかし、母国語の使用においては減少しています。これは一つの皮肉ですね。もう1つの皮肉は、私たちは自国語の使用を奨励することを支持しています。しかし、実際にそれを定着させようとすると、そのサポートは極めて頼りない (slippery) ものになってしまうのです。だから、私はバイデン大統領の活動 (initiative) にとても感謝しています。

私がこのような活動に参加することは、自らに希望を与えてくれます。私自身のことを言えば、それが希望となり、私が取り組んでいることが有効であると信じ続けられるのです。私が今朝のこの議論に貢献できることは、この問題に対する私の草の根的なアプローチであり、世界が私について知る方法です。私の小さなニッチでは、学生やコミュニティに、自らのサモア人としての性質に根ざすこと (grounded in my Samoan-ness) を教えています。私のいうサモア人としての性質 (my Samoan-ness) は、このグローバルな環境の中で生き抜くために必要なものの一部なのです。今回のパネルに参加して、ヴァアイ牧師や司会者のあなたへの敬意と共に (before respect to) 、お二人が小さな場所から来て、成功して、あなたの紹介やあなたの知っている文化をお集りの皆さんに聞いていただいていることを知り、改めて、私が学生や地域社会に働きかけていること、このグローバルな環境を生き抜くためには、自分の文化を知ることが大切だと思いました。私の場合は、自分がサモア人であることを知り、その文化が3000年前から存在していることを知り、さらに3000年先まで続くことを主 (Lord) が助けてくれたのです。

自分の歴史がないと、どこから来たのかわからない

自分の物語を知るための2つの方法があります。時々、私たちは自らの物語 (story) を繰り返すことによって、人々に嫌な思いをさせたり、自らを小さく感じさせたりすることがあります。しかし、サモアの物語は、自分が生存者であるという物語を知ることは、ボブ・マーリー (Bob Marley) の歌のようなものだ、ということです。ボブ・マーリーはもちろん亡くなっています。しかし彼の歌のように、自分の歴史を知らなければ、自分がどこから来たのかもわからなくなってしまいます。教科書の問題もありますが、それだけではなく、自分が誰なのかを伝えなければなりません。誰がその物語を書いたのか、誰がその物語から良きものを得ている (benefit) のかを伝えなければなりませんし、私の言うことにどうか耳を傾けてください (you need to listen to what I am telling you)。なぜなら、伝統的に私たちは口承社会であり、この現代社会においても、私たちは自分たちの社会であることに変わりはないからです。ですから、自分の言語を知る必要があります。そうすれば、私が伝えるあなたの物語はあなたの心に届くでしょう。そうすれば、あなたは生存者になれる (you will survive) のです。

米国との提携により、我々は米国民であり、サモア人でもある

1900年以降、米国領サモアはユニークな存在となりました。国連の見解では、米国領サモアは植民地(a colony)であるとされていますが、私の頭の中では「いや、そうではない」と言っています。私は、植民地が必要とするもの、植民地化されたものを理解していますし、誰もがそれを共有しています。しかし、現在進行中のパートナーシップの対話プロセスでは、私たちは自らを植民地だとは思っておらず、自由なのです。米国とのパートナーシップがあります。それによって、私たちは米国民であり、同時にサモア人でもあるのです。1900年以降、そのバランスを取るのに苦労してきました。それが課題なのです。だからこそ、私のアプローチ「自身の物語を知れ」が貢献できると思います。米国の歴史(American history)を知る必要があるでしょうか？ええ、米国の物語(the American story)を知らなければなりません。しかし、私たちはサモアの物語も知らなければなりません。このようにして、私は環境の変化に対応してサモア人として生存(we still survive)できるようにするための刺激を与えているのです。

サモア人は環境の一部であり、その上にいるわけではない

最後に、パネリストの皆さんにお伝えしたいことは、私はいつもサモア人であるということです。ハワイ人も同じだと思います。そして、ヴァアイ牧師がおっしゃったモアナ(Moana: unidentifiable)とは、私たちは環境の一部(a part of the environment)であり、環境に組み込まれた存在(an integral part of the environment)であり、環境の上にいるのではないということです。私たちは環境の中にある独立した存在なのではなく(We're not in)、環境の一部なのです。私たちは、宣教師がやってきたときに始まったように、多くのことをサモア化してきました。古代のキリスト教を要約しました。米国との関係についてもまとめました。気候変動や、人々が「あなたたちは沈んでいる」と警鐘を鳴らしても、私たちはそれをより深く理解しているのです。私たちは、ここが私たちの空間であることを知っており、私たちはその一部であることを知っているのです。続けることができます。私たちはこの空間を守るのです。ビリー・オーシャンの歌にあるように、困難な状況に陥ったときにはタフになれば進むのです。時間をいただきありがとうございました。

ハワイ先住民教育と世界の覚醒のための認識論からの視点 — マニユラニ・マイヤー

オードリー・キタガワ 40:41

オケネイサさん、素敵なお話をありがとうございました。続いて、マニユラニ・アルリ・マイヤー博士にお話を伺います。博士はオアフ島のカイルアビーチのモカプの砂浜と、ヒロ・キリ・パルクの雨の多い海岸線で育ちました。アルリ・オハナ(家族)は、大きくて多様な学者の活動家グループであり、専門はハワイの教育、被害者・加害者およびコミュニティによる被害の修復を目指す司法(restorative justice)、土地の再生、オハナの健康法、文化の再生、芸術、教育、刑務所の改革、変革的経済学、食糧主権(food sovereignty)、ハワイアン・ミュージックに献身的に取り組む、大きくて多様な学者の活動家グループです。先住民族の認識論とその世界的な覚醒における役割の分野で活動しています。ハーバード大学で教育哲学の博士号を取得し、ハワイ大学の西オアフキャンパスに勤務しています。マニユラニさん、あなたは「愛することは、目覚めた心の実践である。」(Loving is a practice of an awake mind.)という美しい言葉を残しました。そして、これが、オセアニア地域における人種差別撤廃のアプローチとどのような関係があるのかと問われていますね。ハワイが世界の発展に影響を与えているかどうか？すべてです。では、この言葉の意味と、ハワイ先住民の課題についてのあなたの見解をお聞かせください。(訳注 7)(訳注 8)

マニユラニ・マイヤー 42:09

オードリーさん、ありがとうございます。そして、オケネイサさんも素敵ですね。明確なメッセージをいただきました。クリスタルさん、あなたをととても誇りに思っていますよ。私たちの民族のために、そこにいてくれて、人々のために活動してくれていることに感謝します。そしてキオネさんが話してくれた文脈には、私たちがもっと話したいことがたくさんあります。キオネさん、あなたは本当によくやってくれています。実質的に公務ですから、おかしなものもあるかもしれませんね。それはどういう意味でしょう。(A quasi-official thing of oh, that was kind of funny. What does that mean?) そして親愛なるウポルさん。偽りの二重性(all false dualities)を明確にしてくれてありがとう。この偽りの二重性こそが、私が指摘してきていることなのです。ウポルさんが進めている研究(work)のなかで、共生関係(relationality)に関わることについてお話ししようと思います。ウポルさんの研究では、私たちが置かれている状況と、なぜ古代の知恵のシステムで対応できないのかを分析しています。(訳注 15)(訳注 16)

権力者の無知と人種差別による既存知識体系の抹殺は世界的に発生しているが、我々先住民の知識体系は回復しつつある

今、既存知識体系の抹殺(epistemicide)は、権力と無知と人種差別によって、世界的な現象となっています。しかし、私たち先住民の知識体系の死は、回復しつつあります。この50年の間に、私たちいわば従兄弟とも云えるお互い(our cousins)は、お互いを知り、お互いをサポートし、お互いの島に船で行き来し、歓迎しあうようになりました。そして、その歓迎の中で、私たちは文化的、地域的な実践を復活させているからです。(訳注 9)

私が好きな言葉のひとつに、70年代にカリフォルニア州オハイオで偶然出会った世界的なリーダー、クリシュナ・マーシー(Krishna Murthy)の言葉があります。

深刻に病んだ社会に適用すべきは、健康の尺度ではない。

その通り。これは、オケネイサさんが言ったことだと思います。

私たちは、形式的には占領されています。しかし、心は植民地化されていません。

私たちは形式的には米国の一部なのです。だから、今は私たちが助ける時なのです。この若々しい社会が進化するのを助ける時が来たのです。だからクリスタルさん、あなたたちに任せますよ。私たちの(解読不能)を提唱してください。キオネさん、何を言っているかわかりますか？そしてウポルさん、地球意識を中心としたよき生き様のシステム(the systems of well being that are centred on earth consciousness)、それがアロハ・アイナ(Aloha aina)です。

土地に尽くし、人を愛す

先住民の知識体系(indigenous epistemology)を一言で表すと、「土地を愛し、人に尽くす」(it's love land, serve people.)です。「土地を愛し、人に尽くす」。いや、ちょっと待ってください。「土地に尽くし、人を愛す」(It's serve land, love people.)ですね。違うけど同じですね。これが、この人種差別撤廃の取り組みで皆さんにお伝えしたいことです。

今こそ、議論すべきときです。先住民の言葉で(解読不能):「森に木を植えよう、必要な雨はやがて降る」(Plant a forest and the rains will come.)という表現があります。また、(解読不能):「他の人と目的を共有すれば、あなたの人生には意味がある」(Share purpose with others and your life will have meaning.)という表現もあります。そして、それがオードリーさん、それがあなたがしていることなのです。あなたは自分の目的を、より多くの実践者、学者、研究者のグループと共有していますし、誰もが優れたものを持っています。

ここに(解読不能)という私のお気に入りの表現があります。(解読不能)は音を出すという意味ですので、「サンゴ礁は土地を求めて音を出す」という意味になります。サンゴ礁はひとつから多くへ成長し、多くは一つを生み出します。これはウポルさんの言う島の神秘的な言葉で、この精神性の概念を表現しています。これは宗教ではありません。宗教は官僚主義です。精神性(Spirituality)は、偉大なおばあさんのようなもので、空間を越えた理解が必要で、測ることはできないでしょうが、経験することはできます。そうです。ウポルさん。これこそが、私たちの時間の性質であり、私たちが推進している変容する現実で一貫していることであり、その入り口なのです。

そして、私の仕事はアロハ(Aloha)の効能の中にあります。アロハとは何かについて、いろいろ思われるかもしれませんが、私が説明しましょう。アロハとは、紛れもなくすべての価値の源であり、創世記であり、源であり、私たちの思考と存在のアルファでありオメガであるのです。つまり、皆さんもご存知だと思いますが、私たちがこの混乱から抜け出すためのエネルギーの場を呼び出すためには、具体的なもの(something tangible)が必要ですが、その具体的なもの(tangibility)とは、もちろん無形のもの(the intangible)なのです。

難問こそが人生を価値あるものにし、古代の生活様式に精通し、気候変動を知っている人々を呼び集める

私はこのような難問(the conundrums)が大好きです。難問の集まりこそが人生を価値あるものにしてくれるからです。それが自然、国家であり、今こそ、偽りの二重性(false duality)を前に出して、それらを再び完全なものにすることができるのです。古代の生活様式(ancient well-being systems)に精通している人々を呼び寄せる必要があります。先住民の実践者、学者、先住民の人々は、気候が変化していることをすでに知っています。もう何十年も前から分かっていたことです。冗談でしょうか？オアフでは今、華氏 90 度(摂氏 32 度)です。私はココナツの木を植えて、ハワイでの観賞用の役割ではなくて、責任ある役割をもたせています。私たちがココナツと再び共生関係を持てば、物事、たとえば、食の安全、文化の活性化、環境保全などは変わるでしょう。これらが三部作(the trilogies)であり、この人種差別的な議論から抜け出すのに必要な三本柱(triangulation)になるのです。人種差別とは、私にとっては、無知の同義語です。人種差別は、不平等の同義語です。(訳注 10)

公平、互恵、透明性が、より高い周波数の平等、同時性、真実をもたらす

私の友人カムエラ・イーノス(Kamuela Enos)のアイデア、木製ボウル修理モデル(the pivot model)を紹介したいと思います。このモデル(pivot)は、木製のボウルにパッチを当てて、壊れたボウルに癒しを生み出す手法です。蝶のイメージで、美しいですね。そして、彼はそれを、公平性、互恵性、透明性と表現しています。クリスタルさん、この 3 つの要素は、真実を伝えることを考える上での素晴らしい基盤となります。私たちが真実を伝え始めると、皆さんや、キオネさんが取組んでいらっしゃるように、真実は癒され、真実は認識されるからです。友人カムエラ・イーノス(Kamuela Enos)が彼のモデル(his pivot model)で表現したように、公平性、互恵性、透明性を実現すれば、私たちはより高い周波数に到達する(will get to the higher frequency) ことができます。(訳注 11)

私たちの祖父母(kupuna)にはいつも、より高い周波数(the higher frequency)を、より高いもの(the higher)を表現しなさいと教えられました。そして、公平性、互恵性、透明性が、平等性、同時性、真実になるのです。そして、これが(判読不能)の目的です。愛することは、目覚めた心の実践です。あと 30 秒しかありませんね。オードリーさん、ベルを鳴らしましたか？聞こえませんでしたね。本当に名誉なことだと伝えたいのです。

私はこの人種差別撤廃パネルの人たちに揺さぶりをかけましたが、大丈夫ですよ。なぜって、社会を作り直さないといけないのですから。人種差別であることはわかっています。アインシュタインの言葉です。

問題を解決する意識は、その問題を進展させた意識ではありえない。

ですから(判読不能)愛と真実でこのパネルを洗い流しましょう。共に進化しましょう、革命ではありませんよ(our evolution not a revolution)。進化に参加しましょう。(判読不能)ありがとうございました、オードリーさん。以上です。

質問と回答

オードリー・キタガワ 50:42

マニユラニさん、ありがとうございました。これから対話を始めたいと思います。まず私がパネルに質問をしますが、それから会場の皆さんにも質問をしていただきます。

なぜ政府にNHPIの代表者を置くことが重要なのか？— そうしないと、NHPIが政策に反映されないから。人事は政策なり。

まずはクリスタルさんからお願いします。なぜハワイ先住民のコミュニティに影響を与える人種差別や偏見に対処するために、米国連邦政府にハワイ先住民の代表を置くことが重要なのでしょうか？

クリスタル・カアイ 51:15

オードリーさん、ご質問ありがとうございます。私は、すべての分野で代表者を置くことが非常に重要だと考えています。米国の連邦政府でも、州レベルでも、例えば Q&A にあるハワイ市民事務所 (Office of Hawaiian Affairs) でもそうです。アジア系米国民、ハワイ先住民、太平洋諸島先住民に関するホワイトハウス活動 (the White House Initiative on Asian Americans, Native Hawaiians and Pacific Islanders) を設立した大統領令には、アジア系米国民、ハワイ先住民、太平洋諸島人のコミュニティを含む、これまで十分なサービスを受けてこなかったコミュニティの人材採用、キャリア開発、リーダーシップ開発を促進し、米国政府の連邦職員のあらゆるレベルで公共サービスに多様な声を届けることを目的として、市民参加が非常に重要だと書かれています。人事は政策ですから、これは重要なことです。特に米国の首都であるワシントン DC では、私たちの歴史や課題、ニーズを積極的に理解してくれる人がいないと、私たち自身が政策に反映されないのです。それがここで語られたことだと思います。

繰り返しになりますが、ハワイ諸島先住民のコミュニティのユニークな歴史は、残念ながら米国の歴史ではあまり教えられていません。この大統領令のもうひとつの役割は、アジア系米国民、ハワイ先住民、太平洋諸島先住民の多様な歴史と表現を確実に高め、米国内でも伝統的に見過ごされてきたこの人々の公平性、機会、包括性を促進することにあります。私たちは非常に複雑な歴史を持っています。それが今日、表面化してきているのだと思います。ハワイ出身の私のような者が、なぜ連邦政府で働くことを望むのかと疑問に思う人もよくいると思います。私の同僚や仲間には、必ずしも意見が一致しない人もいますが、代表者の存在は重要だと思っています。

現在、米国議会には 4 人の NHPI 議員 (Native Hawaiian Pacific Islander members of Congress) がいますが、総勢 541 人の議会では、それほど多くの代表者がいるわけではありません。しかし、そのような組織が、米国だけでなく世界経済全体に影響を与える法律や政策を決定しているのです。そしてもうひとつは、NHPI コミュニティにチャンスがあることを確認することです。現政権では、ハワイ先住民や太平洋諸島出身のリーダーたちが、コミュニティに

真に影響を与える包括的な政策を実現するための提言を行っているため、多くの素晴らしい政策が打ち出されているのです。オードリーさん、ありがとうございました。

米国とハワイ先住民の歴史的関係は？— 米国とハワイ先住民の間の連邦信託責任が大幅に改善され、例えば70年代からネイティブ言語での博士号取得可能に

オードリー・キタガワ 53:54

クリスタルさん、ありがとうございます。ケオネさん、米国とハワイ先住民の歴史的な関係についてどのようにお考えですか？この関係についてどうお感じになるか、お聞かせください。

ケオネ・ナコア 54:14

先ほど、歴史については多くをお話しさせていただきました。その前に、マハロ、マハロ・ヌイ（ありがとうございます）、尊敬するマイヤー博士。お話しいただいたことについて、一言、加えさせてください。先日、アロハとは何かということを考えていたのですが、あなたの説明は私が聞いた中でも最高のものでした。

さて、ご質問についてです。先ほどご説明した通り米国におけるハワイ先住民の関係には長い歴史がありますが、現在、ハワイ先住民を含めて、アメリカインディアン、アラスカ先住民の3つのネイティブアメリカングループについては連邦信託責任 (Federal Trust Responsibility) があります。この義務を果たすために、議会は教育、健康、住宅などを促進するための多くのプログラムや政策をはじめ、自己決定を可能にする (to enable self determination) ためのさまざまな連邦プログラムを制定、実施してきました。先ほどもお話ししたのですが、これまで何年もの間、米国の政策は同化主義を旨としてきて (the United States policies had been assimilationist) おり、私たちの文化をほとんど抹殺するまでに至っていたのですが、1970年代から今日に至るまでの人々の先駆性とリーダーシップ、そして連邦政府のプログラムの助けにより、多くの先住民の素晴らしい文化的価値観と母国語が再生されています。例えば、ヒロ大学、ハワイ大学ヒロ校などです。今では、ハワイ語の博士号を取得することができますし、言語の研究だけでなく、どんな研究分野でも取得することができます。しかし、ネイティブのハワイ語が媒体となります。サモア語が本国でどのように扱われているかについてのオケネイサさんのお話しでは、まだ、やるべきことはあるということですね。(訳注 12)

1970年代以前には、オレロ運動やハワイ先住民専用学校 (the Native Hawaiian immersion schools) などが行われていたことを考えると、希望と誇りを感じます。連邦政府による多くの支援、そして私のお手本 (who has a major role model for me) となったダニエル・アカカ上院議員 (Senator Daniel Akaka) やイノウエ上院議員 (Senator Inouye) が始めたプログラムがあります。これらのプログラムは、プログラムのサポートを強化し、私たちのリーダーは、ハワイ先住民の文化と言語を、今日のような状態にまで回復させました。家庭ではハワイ語を母国語にしながら英語とのバイリンガルの子供たちがいるのです。

米国との関係は複雑です。しかし、現在、私たちの事務所が推進している最も重要なことは、連邦政府とハワイ先住民のコミュニティの間には連邦信託責任 (trust responsibility) が存在するということです。クリスタルさんが言っていたように、連邦政府のプログラムや議会で、

政策や表現に取り組む際には、この点がとても重要です。クリスタルさんのような代表者(a person like Krystal)が、ハワイ先住民のための活動だけでなく、より広範にホワイトハウスで活躍していることは、近隣のコミュニティに多くの声を届けることになると思います。私が80年代に育ったように、ハワイ先住民にはまだ多くの固定観念があると考えていた人もいます。

ハワイ先住民が成し遂げられる可能性はまだありますし、前に進むためにも、クリスタルさんや他の人たちのような立場の存在(having a presentation at that level of through Krystal and others)があれば、ハワイ先住民の問題を政策の細部に渡って解決することができます。多くの場合、大きなプログラムでは何かを言っている、実際に実行するとすると、ハワイ先住民は何かと混乱してしまうのです。このようにして、制度的な人種差別が起きてしまう(the systemic racism can play out)のだと思います。そして、そこから精神的な影響が拡大していくのです。

気候変動と人種差別がフィジーの生活に与える影響？— 物事を分類する成長中心の経済モデルから、「すべてはつながっている」という認識への転換が必要

オードリー・キタガワ 59:10

ヴァアイ教授、気候変動と人種的なダイナミクスについてお話されましたが、この状況は生活やフィジーの他のあらゆる側面にどのような影響を与えているのでしょうか？

ウポル・ルマ・ヴァアイ 59:22

気候変動は、国際協定やコミュニティで謳われているような、地球の安全保障や経済の安全保障への影響だけではありません。生態系に影響を与えるものはすべて、個人にも影響を与えます。つまり、宇宙は私たちの中にあるのです。通常、国際社会はこのことを誤解しており、なぜ私たちが「宇宙は私たちの中にある」と言うのか、いまだに理解に苦しんでいます。

例えば、フィジーのイトーケイ族(Fijian iTaukei)は、文化的な精神体系(a cultural spiritual system)を持っており、一人一人が空を表す鳥、海を表す魚、土地を表す木を持っています。これは現在、国家登録制度(the National Registry system)の一部となっており、フィジーの人々は自分たちが宇宙とつながっていること、宇宙は自分たちの一部であることを思い起こさせてくれます。この核となる継承性とは、生態系(ecology)が、精神性を含めた太平洋地域の生活のあらゆる要素に関わる横断的なものであることを意味しています。この相互接続性と相互依存性は、すでに量子科学(quantum science)によって支持され、改善され、証明されています。マニユラニさんは、量子科学の分野で非常に優れた業績を残しています。私たちは密接につながっているので、一方が影響を受けたり、他方が影響を受けたりした場合、物事を単一のものとして、あるいは二項対立(binary compartments)やカテゴリーで扱ってはならないのです。

真の進展のために(For the sake of development)、私たちが捨て去るべきはこの無慈悲な経済開発モデルであり、ただ少数の人々の便益のための無限の成長への執着と、無理な供出と搾取への依存であり、生命を一体化した統合的なものとしてとらえるモデルへと移行しなければなりません。

気候変動は、経済、食糧、人間の心理的、文化的、精神的な安全性にも影響を与えます。つまり、気候変動は生活のあらゆる側面に影響を与えるのです。経済的、物理的な安全保障だけではなく、生活全体に影響を与えます。だからこそ、私たちは全体的な視点、生活全体の視点から、気候変動に取り組む必要があるのです。

暴力に対処するためのサモアの言語と文化の役割？ — 例えば、施設の少年たちに、自らが何者であるかを思い出させ、報復を踏みとどまらせる。

オードリー・キタガワ 1:02:03

ヴァアイ教授、ありがとうございました。オケネイサさん、サモアの言語と文化を使って、米
国領サモアの暴力に関する問題にどのように取り組んでいますか？

オケネイサ・ファウロマニラ 1:02:19

ありがとうございます。これまで述べてきたように、文化的な問題に取り組む必要があります。今は、少年院(the juvenile)や矯正施設(the correctional facility)に通っています。収容されている人の多くは、暴力と関係しています。だから、そこに行くのです。そして、「自分が何者か知っていますか」と伝え、系図を調べて、自分が何者かを思い出すようにしています。なぜなら、自分が誰であるかを思い出すと、愛の基本、アロハの基本に戻るからです。命を尊重するという基本的なことを覚えれば、サモア人であることの他のすべての行動(all the other protocols)、つまり恐怖との関係を持つこと、男性、男性と男性、女性、それらすべてが自動的に自分に戻ってくるはずだからです。

私たちの文化を用いて課題に取り組んでいますが、この矯正施設や少年院でのこの取り組みプログラムは極めて上手く機能しています。正直なところ、オードリーさん、私は当初、自分の文化が完璧だとは思っていませんでした。私たちは誰をも愛しており、少年たちと接していると、心がとても痛みます。だからこそ今、歴史や文化を利用して、かつての自分を思い出してもらえるようにしています。そしてそこから、私が誰であるかという基本的なことを理解してもらえれば、他のこともうまくいくので、私たちの文化に付随する行動(the protocols)や儀式のなかで、もっと簡単に聞くことができるはずで、聞くと言っても、耳で聞くのではなく、心で聞くのです。いつの日か、生徒の心に接すれば、その生徒は人として生き残れるという事実を知ることになるでしょう。そうすれば、自分の思い通りにならないことに報復するのではなく、平和な気持ちで問題に取り組むことができるでしょう。私たちの文化と言語を、そのように利用しています。

対立に対処する方法？— 対立は、許す機会、自分の長所を出す機会、人と合わせる機会と考える

オードリー・キタガワ 1:05:14

ありがとうございます、オケネイサさん。さて、マニユラニさん、多くの方が人種差別の存在を認めておられますが、(判読不能)、ハワイ先住民として、どのように対立(conflict)にアプローチしているのかお聞きしたいと思います。お聞かせいただけませんか？

マニユラニ・マイヤー 1:05:35

(判読不能)オケネイサさん、ありがとうございます。

対立は、意識の助産師です。(Conflict is the midwife of consciousness.)

私が言ったのではないですよ。パウロ・フレイレ(Paulo Freire)が言ったのです。対立は自分の才能を理解するために不可欠なものなのです。対立を乗り越えて働かなければ、私たちに残るのは対立だけです。ここハワイでは、多くの対立を乗り越えてきました。だからこそ、ウポルさんが何を言っているのか、キオネさんが私たちの民族の文化的理解をもたらすことで何にアクセスしようとしているのかがわかるのです。

私たちは刑務所に通って、素晴らしい女性たちと仕事をしていますが、刑務所にいる女性の95%近くが、これは10年から15年前のことですが、性的被害を受けた人たち(sexual survivors)だということをご存知でしょうか？ですから、私たちが対立の発端(the genesis of conflict)に目を向けたとき、私たちは足元を取り戻して、私たち自身が対立の対処者になるのだ、ということをご理解いただけるでしょうか？

対立は、私たちが成熟するために、お互いに結合するために、(判読不能)、私たちがどのように振る舞うべきかを教えるために必要な要素なのです。(判読不能)最初の薬は赦し(forgiveness)です。(判読不能)赦しのプロセスには、無料のコースがあります。そして、人との関係を保ち、自分の真実を語り続け、ハワイの本質的な姿であるアロハに寄り添うと、より高い周波数で対立の原因に至る(get to a higher frequency of why conflict is necessary)ことができます。私は双子なので、人生ですずっと対立してきました。私は二卵性の双子です。彼女の名前はモアナ(Moana)です。でも今では私の親友です。

もし、あなたが相違点から指導を受けていなければ、あなたがしたいことは、新卒の植民地化ということになります。ですから、対立を資源として利用すると、より高い周波数の効果的な協力、支援に変化することができます。これが、私たちがアウォモ・クーリアナ(awomo cooliana: unidentifiable)を紹介する理由です。アウォモ・クーリアナとは「私たちそれぞれに責任がある」(we carry our own responsibilities)という概念です。それを念頭に行動することで、意識的に自分の優れた点を発揮することができるようになり、他の人と結合するアウォモ(awomo)と呼ばれる神秘的なプロセスを経験することになります。アウォモのチャンネルは常に、創造の可能性を秘めています。それがアウォモ・クーリアナ(awomo cooliana: unidentifiable)です。クーリアナ(Cooliana)とは、個々人の優れた点に対する集団的な変化(collective transformation to individual excellence)のことです。

対立は私を向上させてくれます。というのも、私の人生はすべて色々な形での対立だったからです。私の指向や兄弟の存在が原因でした。私自身の読書の遅さのせいで、28歳になるまでろくな文章を書けなかったと思います。クーリアナ(cooliana)を紹介する機会をいただき、ありがとうございました。後ほど、もう少し、これについてお話ししたいと思います。

ハワイ先住民族コースに参加するには？— 家族、母、兄弟、コミュニティを大切にすることで、外への広がりが生まれる。

オードリー・キタガワ 1:08:42

マニユラニさん、どうもありがとうございました。ここからはフロアからの質問を受け付けていきます。しかし、時間を気にしなければなりませんね。最初の質問は、デビッド・ムーア(David Moore)さんのもので、こう言っています。

私はカリフォルニアのアフリカ系米国民で、10代の頃からハワイの歴史の読書に没頭してきましたが、あなたの講座に参加できるかを知りたいと思っています。そして、私の憧れが今日のズームにつながったのですが、どのようにして参加すればいいのでしょうか？

マニユラニさん、答えていただけますか？先ほど高周波数の高い意識(the higher frequency higher consciousness)の話がありましたが、アフリカ系米国民のコミュニティからの方が、どうやって参加すればいいのか知りたいとの問合せです。その質問にお答えいただけますか？

マニユラニ・マイヤー 1:09:30

ご質問、ありがとうございます。ここハワイでもよくいただく質問です。私が皆さんにお伝えしているのは、「自分の場所で優秀であれ」(be excellent in your own place)ということです。

自分の家族に奉仕する方法を学び、近隣で食物を植え育てる方法を学ぶ。(Learn how to be of service to your own family, learn how to plant food in your own neighbourhood) 常に真実を語り、真実を伝える方法を見つけ出す。私は、大規模なシステムはもうやめました。これからは、シンプルな家族のシステムと、自身の進化について考えていきます。自身の進化は、エネルギーの火花であり、他の人を見つけることができるからです。ハワイは、地球を救うために重要な役割を果たすことになるでしょう。なぜなら、ウポルさんが実際に定義したよき生き様のシステム(a system of well-being)という古代のシステムがあるからです。家族を大切にすること、母親を大切にすること、兄弟の癒しを大切にすること、そしてコミュニティを大切にすることです。そして、そこから外へと広がっていく、というのが私の本音です。ありがとうございました。

NHPIコミュニティに影響を与える不公平さへのバイデン政権の取り組み？— 連邦政府全体の公平性を確保するための大統領令の発令；ハワイ先住民が気候変動に対処するための国際的な伝統的知識の共有を可能とする内務省通知など

オードリー・キタガワ 1:10:33

どうもありがとうございました。ケイ・デイさん(Kay Day)からのご質問ですが、彼女はクリスタル・カアイさん宛に、こう言っています。

アジア系米国民、ハワイ先住民、太平洋諸島先住民に関するホワイトハウス活動(the White House Initiative on Asian Americans, Native Hawaiians and Pacific Islanders)を

通じて行っている活動以外で、バイデン政権が、ハワイのコミュニティに影響を与える不公平さに対処するために行っている活動についてお話しいただけますか？

クリスタル・カアイ 1:10:56

ご質問ありがとうございます。先ほどお話したように、アジア系米国民、ハワイ先住民、太平洋諸島先住民に関するホワイトハウス活動を通じて、具体的に3つのことを行っています。それに加えて、私は先ほどの発言の中で、初日に大統領、バイデン大統領が優先事項として、連邦政府における人種的公平性を推進するための大統領令(an executive order to ensure that there's equity throughout the entirety of the United States federal government)を出したことを紹介しましたが、これは過去に例がありませんでした。このように、今、米国の連邦政府では大きな変革が起きています。教育格差、健康格差、経済格差、貧困など、さまざまな問題がありましたが、残念ながら今回のパンデミックによって、そのうち30件程度がさらに深刻化しています。しかし、現在の米国には、連邦政府全体で公平性を高めることを約束する大統領がいるということは、私にとって非常に刺激的なことであり、アジア系米国民、ハワイ先住民、太平洋諸島先住民に関するホワイトハウス活動を主導する特権を得たことを大変光栄に思う理由の1つです。

議論の中で出てきたことですが、気候変動はNHPIコミュニティだけでなく、地球全体の私たちの生活を脅かすものです。この分野でもバイデン政権は、気候変動に対する司法を中心に据えた活動を行うことを強く約束しています。

内務省は最近、ハワイ先住民のコミュニティが気候変動に対処する方法について、彼らの文化的知識や歴史を利用して、国際的な伝統的知識を共有し、私たちの政策に反映させる方法を模索するための助成金の通知を出しました。このように、革新的なことが数多く行われており、現政権の最優先課題となっています。

結論

オードリー・キタガワ 1:12:57

クリスタルさん、ありがとうございました。これで最後になります。たくさん質問が寄せられていますので、すべてをカバーすることはできません。残念ですが、締めくくりのご挨拶に入らせていただきます。質問をされた方に申し上げておきますが、質問をされた方には別のタイミングでお答えいたしますように努力いたしますと共に、その連絡方法はこれから考えます。それでは、クリスタルさんから本日のまとめ (your concluding remarks for today) をお願いします。

歴史を振り返ってみると、私たちのコミュニティは回復力と強さに満ちている — クリスタル・カアイ

クリスタル・カアイ 1:13:33

オードリーさんをはじめとする G20 フォーラムの皆さん、ハワイアン・太平洋諸島出身者のコミュニティが直面している多くの課題と、私たちが持っているチャンスについて話し合う機会を与えてくださったことに、改めてお礼を申し上げます。今日の議論にはとても刺激を受けましたし、多くの講演者、つまり皆さんが挙げたハワイ先住民や太平洋諸島先住民のリーダーたちのモデルを聞くことができ、未来への希望が湧いてきました。私たちが克服しなければならぬ壁はたくさんありますが、私たちのコミュニティは総体的に見て、回復力があり、強いものです。私たちは歴史の中で何度もそれを証明してきました。ありがとうございました。

共生関係なくして真の人間性はなく、永続的な善の源はアロマ(すべての価値の紛れもない源)である — ウポル・ルマ・ヴァアイ

オードリー・キタガワ 1:14:13

クリスタル、本当にありがとうございました。そしてヴァイ教授、最後のコメントをお願いします。

ウポル・ルマ・ヴァアイ 1:14:21

今日の共有は本当に素晴らしいものでした。そして、パネリストの皆さん、ありがとうございました。人と人とのつながりなくして、真の人間性は生まれません。永続的な良いものの源は、マニユラニさんが話していたアロハであり、フィジーでは物ではなくアロマと言います。希望とは、未来のメロディーを聞くこと。共生関係 (relationality) とは、それに合わせて踊ることです。偏見ではなく、オープンであること。優位性ではなく、奉仕。劣等感ではなく、平等感を持つこと。恨みではなく、融和を。最後に、私のパプアニューギニアでの恩師のひとり、故バーナード・ナラコビ (Bernard Narakobi) 氏の言葉を引用して終わりたいと思います。

私たちの歴史は、西洋の探検家との接触から始まったわけではありません。私たちの文明は、キリスト教の宣教師が来たことで始まったわけではありません。私たちは古い文明を持っており、その歴史に適切な尊厳と場所を与えることが重要です。私たちは、自律性を否定するのではなく、自分たちが何者であるかを受け入れてこそ、自分たちでいられるのです。ようやく世界とつながった今、私たちは世界という鏡を通して自分自身を見ることとなりますが、そのときに自らの等身大の姿を見るのか、それとも他人の影の中の姿を見るのか、消えゆく光による長い影に自らを見るのか、年老いた夕暮れの闇(the advanced darkness of evening dusk)のなかに見るのか？それとも、長く輝く一条の光や朝日の中に自らを見るのだろうか？

(判読不能)以上です。オードリーさんと G20 宗教間フォーラムには、ご招待をいただき、本当にありがとうございます。フィジーサルバ(Fiji Salva)より。

第一に、NHPIに限らず欧米も含めてその複雑な歴史を学び、それぞれが人であると知ること — キオネ・ナコア

オードリー・キタガワ 1:16:26

キオネさん、お願いします。

キオネ・ナコア 1:16:35

他の皆さんのまとめと同じになりますが、G20 とフォーラムが、ハワイ先住民と太平洋諸島先住民に特化したこのフォーラム (this specific forum) の開催に至ったことに、本当に感謝しています。クリスタルさんが言っていたように、異なる人々を同じグループとしてひとまとめにしないことがとても重要です。ハワイ先住民や太平洋諸島先住民の問題が一緒にされてしまうことがよくあります。

マニユラニさんが言ったように、人種差別は多くの場合、単なる無知だと思います。この問題を解決するためには、2つのことができると思います。1つ目は、ハワイ先住民だけでなく、すべての太平洋諸島先住民、そして西洋諸国の人々の複雑な歴史について、時間をかけて学ぶことです。このような教育が行われれば、多くの対立は自ずと解決されると思います。そしてもうひとつは、その知識をもとに、人々がお互いに支え合い、サポートし合い、アロハを示すことができるかどうかです。そして特に、お互いに、そして他のコミュニティが個人的にも集団的にも自己決定を選択できるように支援することです。それこそが、明日に向けての最良の、最も有益で効果的な方法だと思います。

過去は、今日と明日の方向性を示してくれる — オケネイサ・ファウオロ・マニラ

オードリー・キタガワ 1:18:25

ありがとうございました。それでは次にオケネイサさん、お聞かせください。

オケネイサ・ファウオロ・マニラ 1:18:31

ありがとうございます。このような機会を与えてくださって、本当にありがとうございます。このようなウェビナーに参加するのは初めてです。私はサモア人のことを考えることしかできませんが、お話ししたように、過去が今日と明日の方向性を与えてくれる (if I don't follow it tonight, morning dial, literally translated that our past guide gives us direction for today and tomorrow)、ということです。これが、私が信じていること、そして私たちがあと 1,000 年以上生き延びるために努力していることのすべてなのです。皆さん、本当にありがとうございました。神のご加護を。

オードリー・キタガワ 1:19:25

どうもありがとうございました。オケネイさんははるばる米国領サモアから、ヴァアイ教授もはるばるフィジーから、まさに法螺貝が吹かれていますね、ここ東海岸では午後かもしれません、そこにいる皆さんにとってはもちろん日の出ですからね。本当にありがとうございました。そしてマニユラニさん、最後にご挨拶をお願いします。

私たちの生命全体は法則 — マニユラニ・マイヤー

マニユラニ・マイヤー 1:19:56

ありがとうございます、オードリーさん (Mahalo Nui, Audrey)。ワシントンからの皆さん、クリスタルさん、キオネさん、オードリーさんには本当に感謝しています。遠く離れた私たちの仲間にも奉仕してくれてありがとう。ありがとう、ありがとう、ありがとう。そして、太陽を連れてきてくれたウポルさん、島全体が私たちのためにあり、今回の話し合いの中で日の出を迎えたことは、まさに素晴らしいことでした。あなたの考えを聞いてよかったです。そしてオケネイさん、あなたはサモアのために、素晴らしいことをしてくれました。

私たちは、自分が何者であるかを知り、それを広げ、つなげることで、お互いへの愛を深めていきます。ですから、私が友人のウポルさんから学んだ共生関係 (relationality) は、私たちがどうやって回復していくかということの核心なのです。そして、それは人種差別の対極にあるものことではない (it is not the opposite of racism) のです。それは、すべてのものが癒されるための発端 (genesis) なのです。今日私が学んだことは、共生関係 (relationality) は健在であるということです。この人種差別廃絶活動 (this anti-racist initiative) に感謝します。

この活動、今後は違う呼び方にしましょう。なぜなら、私たちは何かをすることで癒されるというムーブメントを起こしているからです。私はこれを「立体映像による認識論」(holographic epistemology) と呼ばせていただきます。というのは、ハワイアン認識論 (Hawaiian epistemology) と呼ぶと、人々は十分にハワイを感じられず、先住民認識論 (indigenous epistemology) と呼ぶと、先住民を感じられないからです。今、私たちはそれを立体映像 (a hologram) と呼びましょう。立体映像 (it) は、今日、それぞれがお話しなされたことにつながって (synergizes with what every single person has spoken about) います。私たちの生命全体は法則 (the wholeness of our lives is the discipline) です。その法則は政策のなかにもありませんよ、クリスタルさん。歴史の正確さのなかにもありますよ、キオネさん。皆それぞれが、実行しているのです。それでは、(判読不能)の歌を歌いましょう。あと 10 秒あります。さあ、みんな。 (このあとハワイ語と思われる言語での歌が歌われています。)(訳注 13)(訳注 14)

自らの行動だけでなく、他の皆の行動にも100%責任を持たなければならない – オードリー・キタガワ

オードリー・キタガワ 1:22:22

美しいですね。本当にありがとうございました。本日、時間をいただき、ハワイ先住民や太平洋諸島先住民の課題や美しさについて、ご自身の知恵や経験、見解を共有してくださった講演者の皆様に、心から感謝いたします。皆さんの言葉、情熱、ビジョン、インスピレーションは、私たちの心に強く響いています。私たちは、皆さんの力強いお話が、私たちの意識を高め、教育し、私たちが慣れてしまった凝り固まった思考や考え方 (the calcified thinking and mindsets) を解体する手助けをしてくれたことに感謝しています。講演者のお一人のお話しあったように、植民地時代の考え方は、ハワイ先住民、太平洋諸島先住民の心の中にも持ち込まれている可能性があります。しかし、今日の対話は、考え方の解体プロセス (the deconstruction and decalcification process) を進める上で、本当に役立ちました。本当にありがとうございました。

ハワイ先住民や太平洋諸島先住民が公平に扱われていると言えるようになるにはまだ道のりがありますが、これらのコミュニティに今日のパネリストの皆さんのような擁護者やリーダーがいるということは、とても心強く、希望に満ちたことです。

そして、G20 宗教間フォーラムの人種差別撤廃活動は、皆さんの声をお届けできたことを光栄に思います。この国際的なプラットフォームは、とても重要なメッセージです。

ハワイには、ホ・オポノポノ (ho'oponopono) と呼ばれる古代の癒しの習慣があります。ホ・オポノポノとは、修正する、管理する、という意味で、祈り、告白、賠償、許しなど、正しい関係を求めるものです。カフナラボ・パウ (Kahuna La'au Lapa'au) の著名な癒し師 (healing priest) の元生徒であるイハレアカラ・ヒュー・レン (Ihaleakala Hew Len) は、以下のように言っています；

人には、自らのみにでなく他者を含む全ての人の行動に 100% の責任がある。外界のすべては人間の内面から外に向かって投影されたものだから。

そして、「ホ・オポノポノの祈り」というマントラを唱えました。

申し訳ありません。許してください。ありがとうございました。あなたを愛しています。

この知恵と癒しと許しの言葉が、私たちの唇と心にありますように。ありがとうございます。再び会うまで愛を込めてお別れしましょう。皆さん、アロハ。そして、パネリストの皆さん、心の底からありがとうございます。皆さんのおかげで私たちはより良い人間になることができました (You have all made us better people today)。本当にありがとうございました。

訳注

(訳注 1) 「制度に組み込まれた」は systemic の訳です。

(訳注 2) 自由協力コミュニティの社会契約は、Compacts of Free Association communities の直訳です。「30 年間、ミクロネシア、マーシャル諸島、パラオの市民は、Compacts と呼ばれる特別な協定を通じて、ビザなしで無期限に米国に住み、働くことができました。Compacts の支援の下で米国に移住する人々の数は、特に本土で、過去 10 年間で約 70% 増加しました。」との記事を参考にしました。[Compacts of Free Association: Populations in U.S. Areas Have Grown, with Varying Reported Effects | U.S. GAO](#)

(訳注 3) 「私たちの生活モデル」の原文は our development models です。Development は「新たな開発」ではなく「日常の出来事の進展」と解釈しました。

(訳注 4) 「気候変動の問題に精神性を持ち込む必要がある」(we need a spirituality or to bring in spirituality into the climate change picture) との文章には「太平洋諸島先住民の従来の生き様を無視して、深海での鉱物資源の採掘等を優先して『植民地支配者』たちの電化を推進するような気候変動対策は避けるべき」との背景がある、と解釈しています。2 つ前のパラグラフにある「地球温暖化に関する重要な情報を伝えるために科学が重要な役割を果たしていることや、パリ協定に基づいて排出量を 1.5°C に引き下げることの重要性には同意」(I do agree with science critical a role of raising important information about global warming, and the importance of lowering emissions to 1.5 Celsius, according to the Paris Agreement.) との表現に対する条件付け、そして、次のパラグラフにある表現「これらの島民や国は救わなければならない未開の民族」(these islanders and these countries are the uncivilised race that need to be saved) を否定するため文章と解釈しています。

(訳注 5) このパラグラフが言及する情報です。[The Clarion-Clipperton Zone | The Pew Charitable Trusts \(pewtrusts.org\) deep-sea-minerals-in-the-pacific-islands-region-brochure-6.pdf \(solwaramining.org\)](#)

(訳注 6) 「リリウオカラニ女王に対する親米派による違法な転覆」の原文は the illegal overthrow of Queen Lili'uokalani なのですが、米国と欧州への権限移譲を目指して反王政を謳った憲法 ([Bayonet Constitution: 1887 Constitution of the Hawaiian Kingdom](#)) を廃止し、王政に基づく新しい憲法を制定しようとした [リリウオカラニ女王](#) の立場を明確にするために「親米派による」を加えました。

(訳注 7) 「被害者・加害者およびコミュニティによる被害の修復を目指す司法」の原文は restorative justice です。[Centre for Justice & Reconciliation のウェブサイト](#)にある "Restorative justice repairs the harm caused by crime. When victims, offenders and community members meet to decide how to do that, the results can be transformational." を参考に訳しました。

(訳注 8) 「目覚めた心」の原文は an awake mind です。

(訳注 9) 「既存知識体系の抹殺」の原文は epistemicide です。論文 [Decolonization of knowledge, epistemicide, participatory research and higher education; Budd L. Hall and](#)

[Rajesh Tandon](#) にある Epistemicide refers to the killing of knowledge systems.との説明を参考にしました。

(訳注 10) 「これが自然、国家であり、今こそ、偽りの二重性(false duality)を前に出して、それらを再び完全なものにすることができるのです」の原文は this is the nature, nation, this is the no, this is the time to bring forward our false duality so we can make them whole again. です。前半の this is the nature から this is the time までは、途中で no もあるように言い直しているようにも聞こえますが、文脈としてはひとつ前のパラグラフにある「アロハ」の説明(すべての価値の源)を受けて、アロハに立ち返るために人々が取り組むべきことを述べている文章、と解釈しました。

(訳注 11) 木製ボウル修理モデルの原文 the pivot model は、限りなく unidentifiable(解読不能)に近いものです。Pivot は「歯根に人工歯冠を継ぐ金属小棒」という意味があるため、木製ボウル修理の際にも類似する技術を用いる可能性があるかと解釈して訳しています。ただし「蝶のイメージで、美しいですね。」(It's a beautiful butterfly image)との整合については検証できていません。

(訳注 12) 「サモア語が本国でどのように扱われているかについてのオケネイサさんのお話しでは、まだ、やるべきことはあるということですね。」の原文は that just knowing that and hearing, Okenaisa talks about how that language is Samoan language is being strongly be being treated back home.です。31:43 ごろのオケネイサ氏の話「学生がサモア語を使用ようになるのには、十分な包括性を持たせるために、永遠とも見える時間がかかりそうです。」を受けてのことと解釈しています。

(訳注 13) 「立体映像」は holographic および hologram の訳です。「ホログラフィック」あるいは「ホログラム」といわれるものと解釈しましたが、この文脈は、「ハワイアンや先住民といった言葉を用いると、当事者ですら、ある特定の範囲のみを想起し、自分事ではなくなる」ので「立体映像として浮かび上がることで誰にとっても認識できるもの」と解釈しました。

(訳注 14) 「私たちの生命全体は法則」の原文は the wholeness of our lives is the discipline です。Wholeness は「人類以外も含めた生命の全体体系」と解釈し、discipline は「人工的に制定した規律ではなく、何ものも抗うことができない自然法則」と解釈しました。

(訳注 15) 「実質的に公務ですから、おかしいものもあるかもしれませんね。それはどういう意味でしょう。」の原文は A quasi-official thing of oh, that was kind of funny です。仮定法過去の文と解釈し、話し手のジョークと気遣いが入り混じっているものとして訳しました。

(訳注 16) 「ウポルさんの言う偽りの二重性(false duality)」が指すのは「西洋人が自らの優位性と海底資源掘削のような搾取経済の正当性を前提にした上で、先住民を気候危機に関わる支援対象とする制度や考え方」と解釈しました。

(訳注 17) 「共生関係」の原文は relationality です。文脈から共生(symbiosis: Biology; interaction between two different organism living in close physical association, typically to the advantage of both. a mutual beneficial relationship between different people or groups. – Oxford Dictionary of English)と同様の意味と解釈しました。因みに Oxford Dictionary of English に relationality はありません。